第４章　ニーズ調査結果

第１節　ニーズ調査結果の概要

１　調査実施の目的

本計画の策定のために、区内に居住する１８歳未満の子どもをもつ保護者を対象とした子育てサービスの利用状況、希望サービス、生活実態その他に係る調査、子ども本人および３９歳以下の若者を対象とした生活実態その他に係る調査を実施しました。

２　調査対象

①荒川区内在住の未就学児がいる世帯（以下、「未就学児世帯」という。）
②荒川区内在住の就学児がいる世帯（以下、「就学児世帯」という。）
③荒川区内在住の小学５年生にあたる年齢の子ども（以下、「小学５年生」という。）
④荒川区内在住の中学２年生および高校２年生にあたる年齢の子ども（以下、「中２・高２相当」という。）
⑤荒川区内在住の１８歳から３９歳（以下、「１８～３９歳の若者」という。）

３　調査方法、調査期間

調査方法：郵送配布、郵送回収およびインターネット回答によるアンケート調査
調査期間：令和６年１月１５日から２月５日

４　回収状況

	配布数	有効回収数	有効回答率
①　未就学児世帯	1,800	1,026	57.0%
②　就学児世帯	1,500	883	58.9%
③　小学５年生	500	251	50.2%
④　中２・高２相当	1,000	415	41.5%
⑤　18～39 歳の若者	2,200	671	30.5%
全　体	7,000	3,246	46.4%

5　調査項目

①未就学児世帯（４２問）

・子どもと家族の状況について
・子どもの育ちをめぐる環境について
・子どもの保護者の就労状況について
・子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について
・子どもの地域の子育て支援事業の利用状況について
・子どもの土曜日、日曜日・祝日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望について
・子どもの病気の際の対応について
・子どもの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について
・子どもの小学校就学後の放課後の過ごし方について
・育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について
・生活実態について
・子育て全般について

②就学児世帯（３３問）

・子どもと家族の状況について
・子どもの育ちをめぐる環境について
・子どもの保護者の就労状況について
・子どもの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について
・子どもの放課後や土曜日、日曜日の過ごし方について
・生活実態について
・子育て全般について

③小学５年生（２９問）

・自分と自分の家族について
・学校生活について
・放課後や休日の生活について
・区の場所や取組について
・悩み事や相談について
・将来について
・その他

④中２・高２相当（３０問）
・自分と自分の家族について
・学校（仕事）生活について
・放課後（仕事の後）や休日の生活について
・区の施設や事業について
・悩み事や相談について
・将来について
・その他

⑤１８～３９歳の若者（２６問）
・自分と自分の家族について
・ライフスタイル・働き方について
・悩み事、子育ての考え方について
・荒川区について

６　調査結果を見るうえでの注意事項

・集計した数値（%）は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示しています。
そのため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値（%）をすべて合計しても、四捨五入の関係で 100%にならないことがあります。
・回答者数を分母として割合（%）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると 100%を超えます。
・回答者数が極端に少ないものについては、分析対象から外している場合があります。ただし、調査結果には参考値として記載しています。
・調査票の選択肢の文章が長い場合、要約して短く表現している場合があります。

第２節　調査結果の要約

１　未就学児世帯・就学児世帯

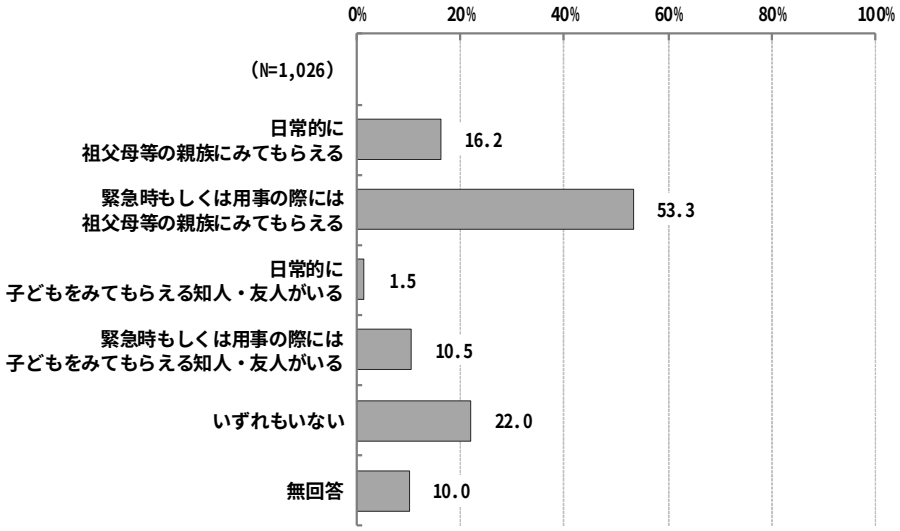
（１）子どもの育ちをめぐる環境（未就学児世帯・就学児世帯）

①日頃子どもをみてもらえる親族や友人・知人

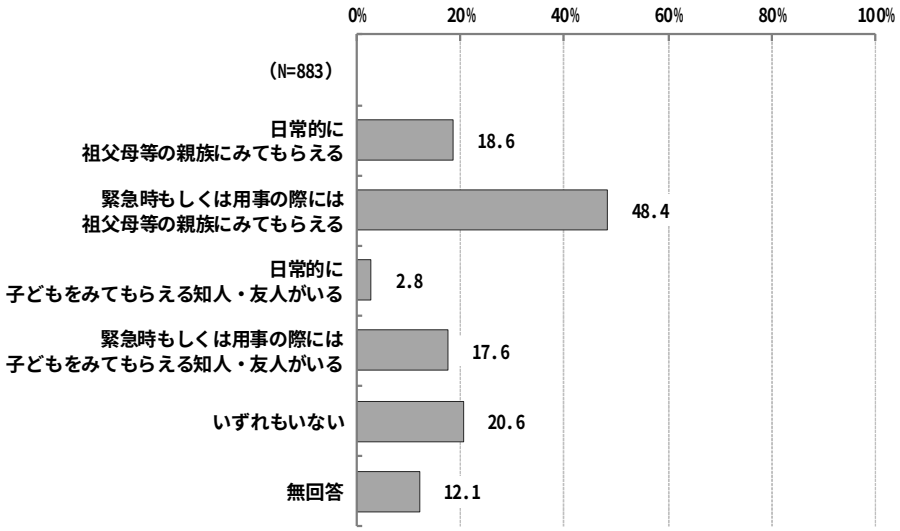
未就学児世帯、就学児世帯ともに「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高くなっています。未就学児世帯では就学児世帯に比べ、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる知人・友人がいる」割合が高くなっています。

問　祖父母等の親族や友人・知人などで、あて名のお子さんをみてもらえる人はいますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞

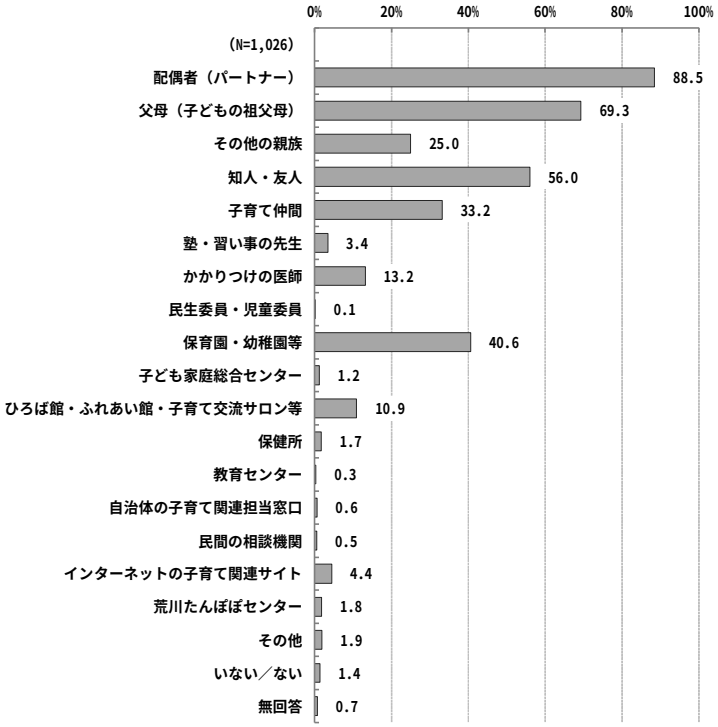


②子育てに関して気軽に相談できる先

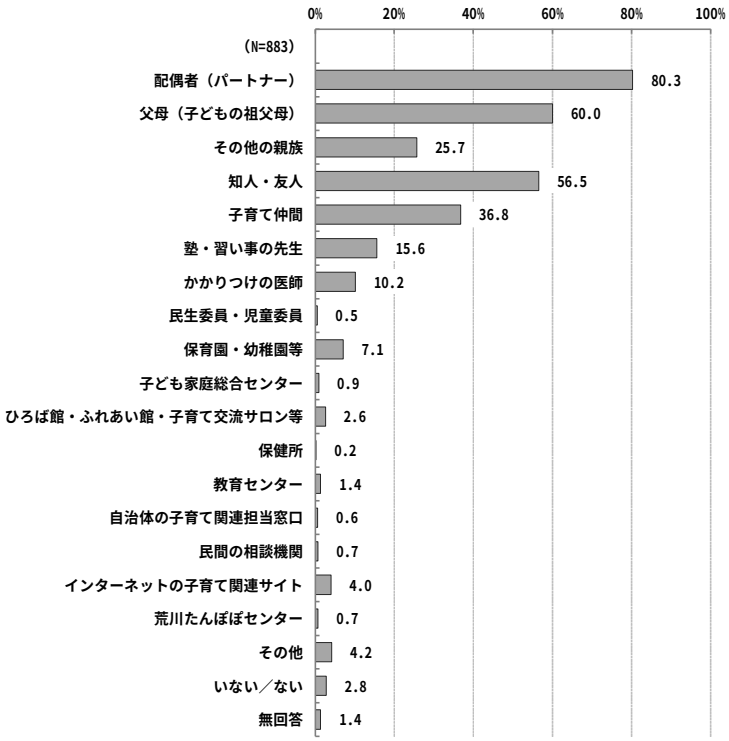
未就学児世帯、就学児世帯ともに「配偶者（パートナー）」の割合が最も高く、次いで「父母（子どもの祖父母）」、「知人・友人」となっています。

問　あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人(場所)はいますか（ありますか）。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞



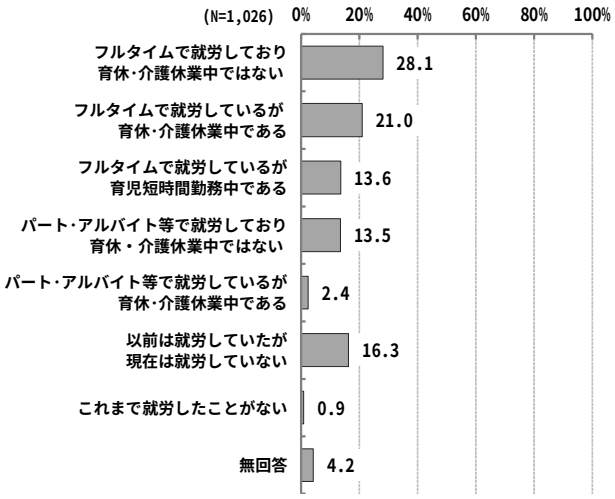
（2）保護者の就労状況（未就学児世帯・就学児世帯）

①保護者の就労状況

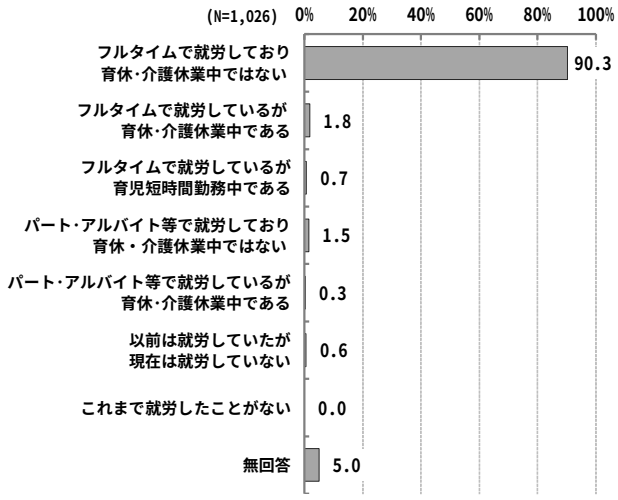
未就学児世帯・就学児世帯ともに、両親とも「フルタイムで就労しており、育休･介護休業中ではない」の割合が最も高くなっています。

＜未就学児世帯＞

【母親】

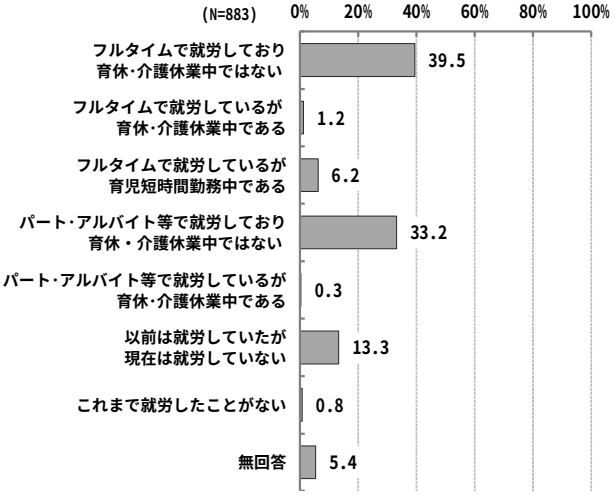


【父親】

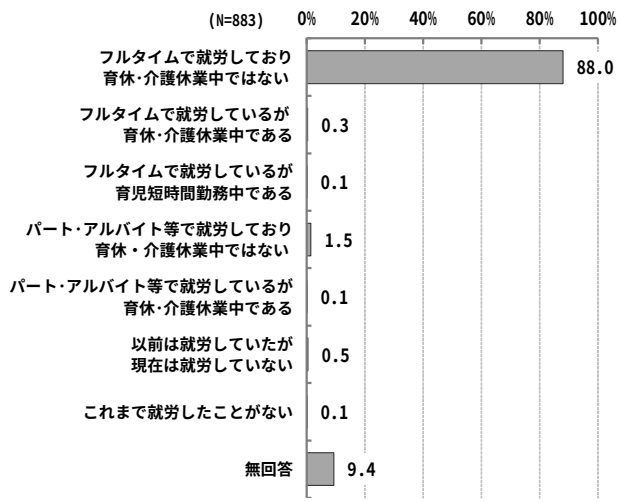


＜就学児世帯＞

【母親】



【父親】

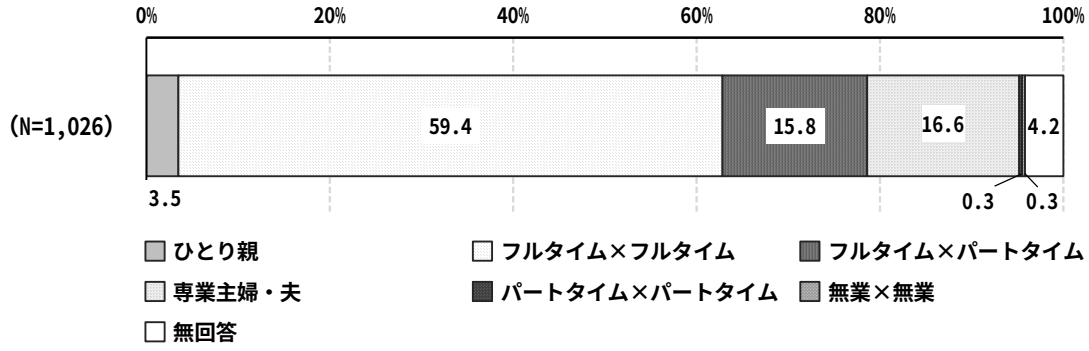


■家庭類型

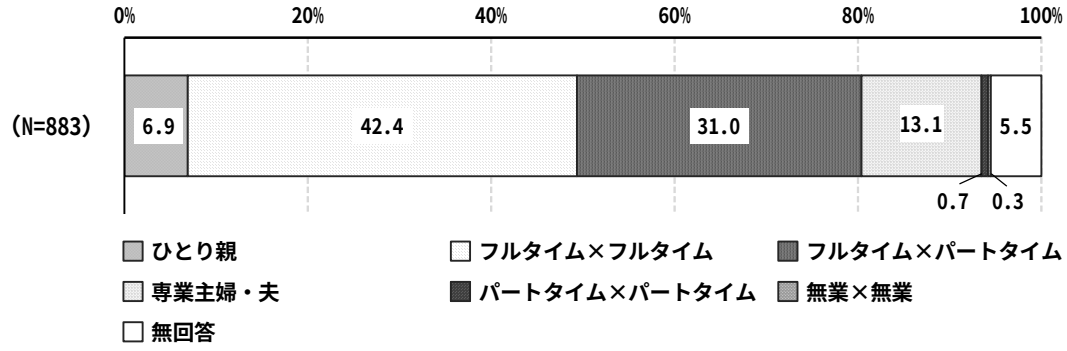
未就学児世帯では、「フルタイム×フルタイム」が 59.4%と最も高く、次いで「専業主婦・夫」が 16.6%、「フルタイム×パートタイム」が 15.8%となっています。

就学児世帯では、「フルタイム×フルタイム」が 42.4%と最も高く、次いで「フルタイム×パートタイム」が 31.0%、「専業主婦・夫」が 13.1%となっています。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞



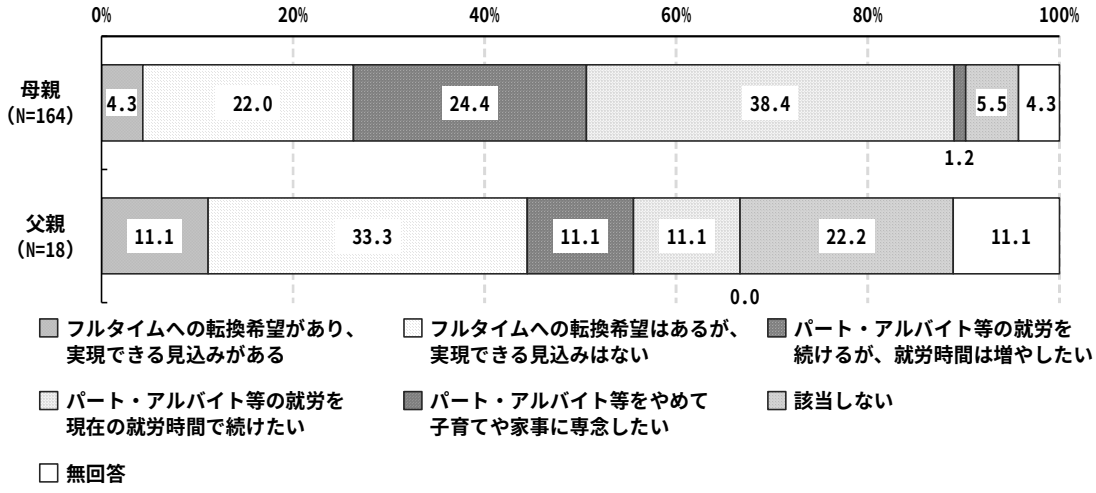
②フルタイムへの転換希望

未就学児世帯では、母親は、「パート・アルバイト等の就労を現在の就労時間で続けたい」の割合が最も高く、父親は、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が最も高くなっています。

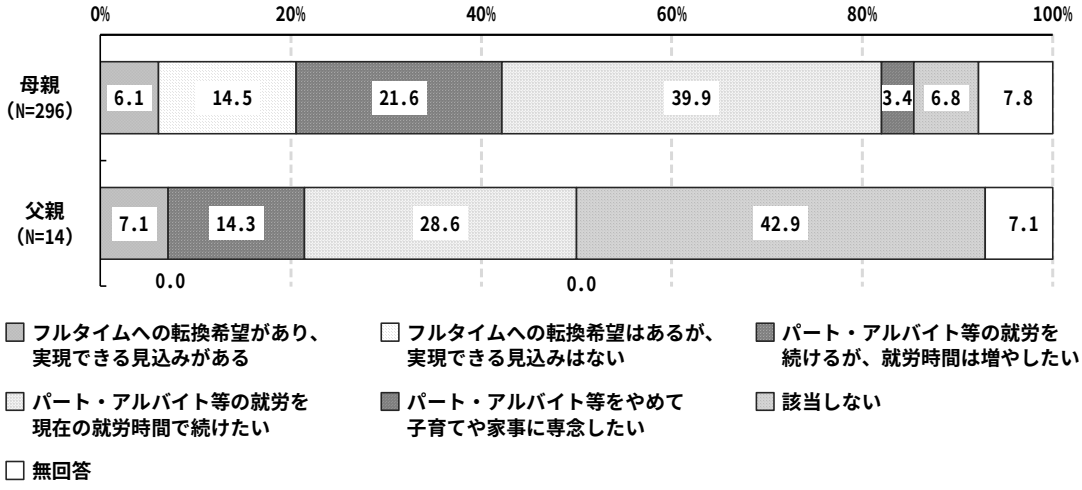
就学児世帯では、母親は、「パート・アルバイト等の就労を現在の就労時間で続けたい」の割合が最も高く、父親は、「該当しない」が最も高くなっています。

問　フルタイムへの転換希望はありますか。当てはまる番号１つに○をつけてください。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞

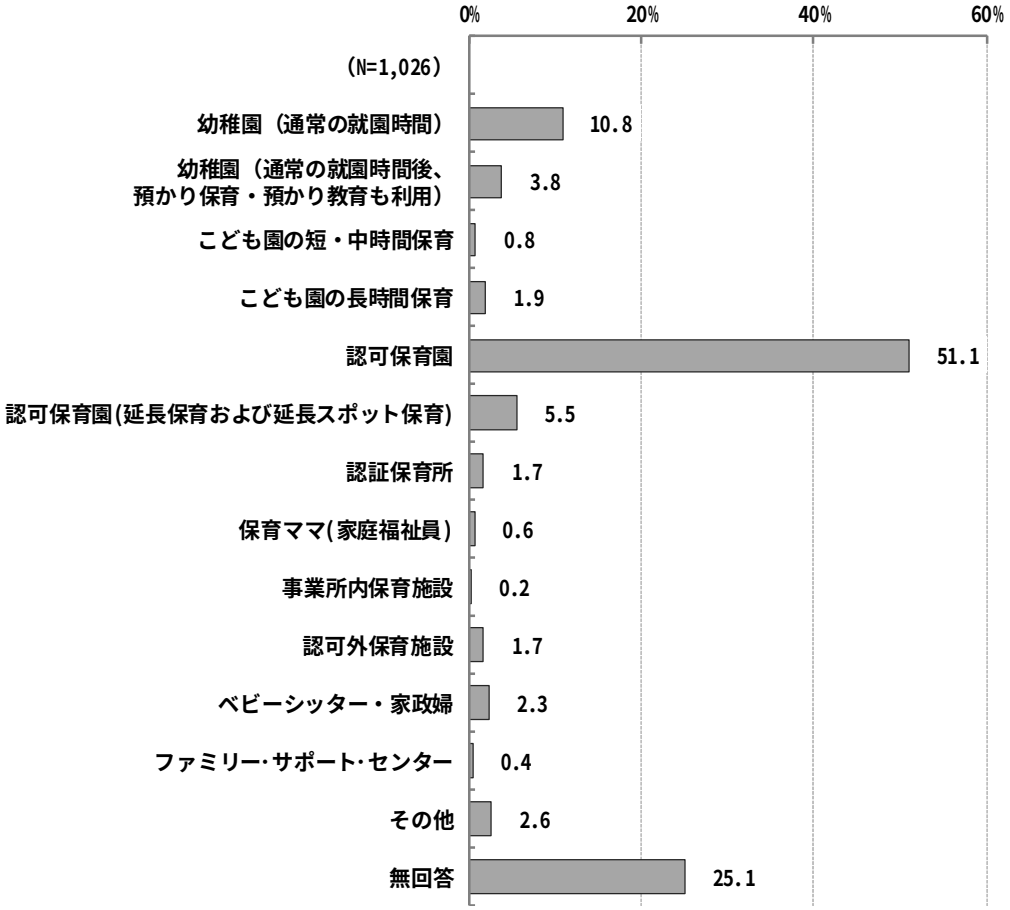


（3）平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（未就学児世帯）

①平日に利用している教育・保育事業

「認可保育園」の割合が最も高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間）」「認可保育園(延長保育および延長スポット保育)」となっています。

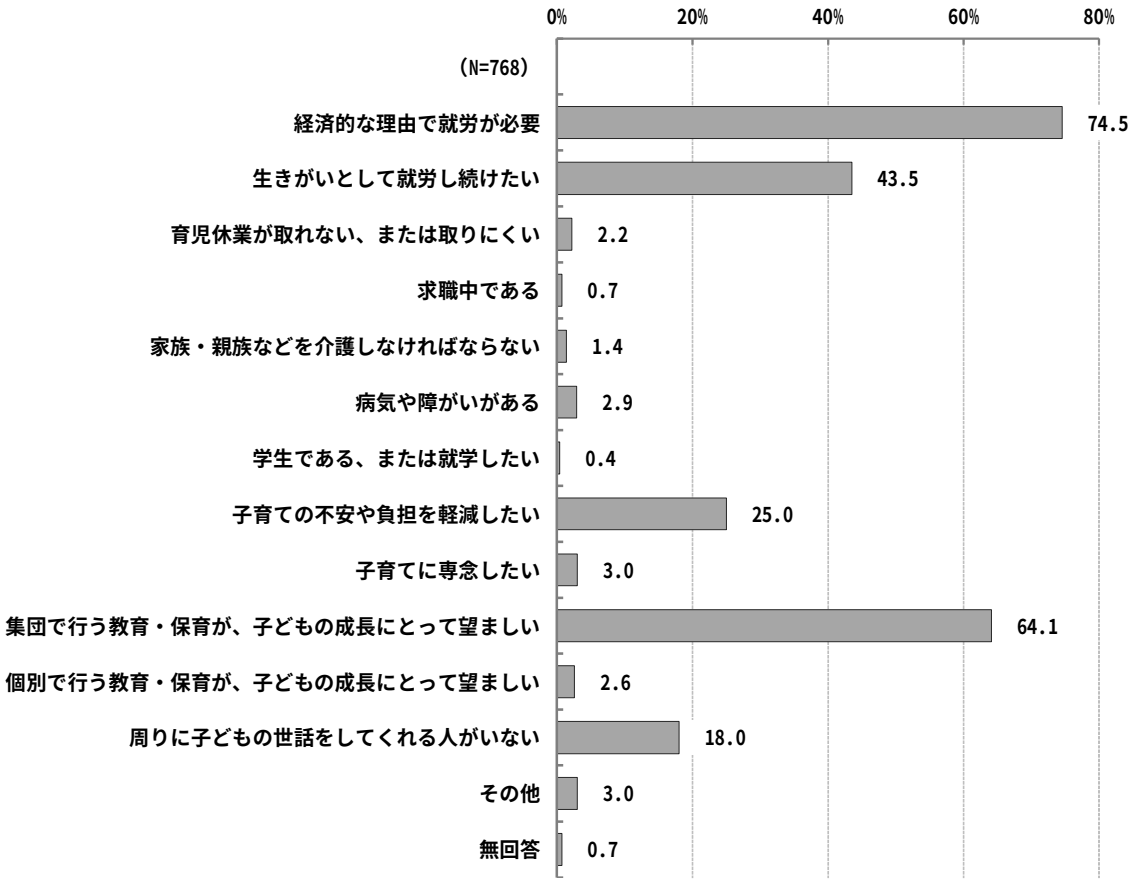
問　あて名のお子さんは、平日どのような定期的な教育･保育事業を利用していますか。



②平日に定期的な教育・保育の事業を利用している理由

「経済的な理由で就労が必要」の割合が最も高く、次いで「集団で行う教育・保育が、子どもの成長にとって望ましい」「生きがいとして就労し続けたい」となっています。

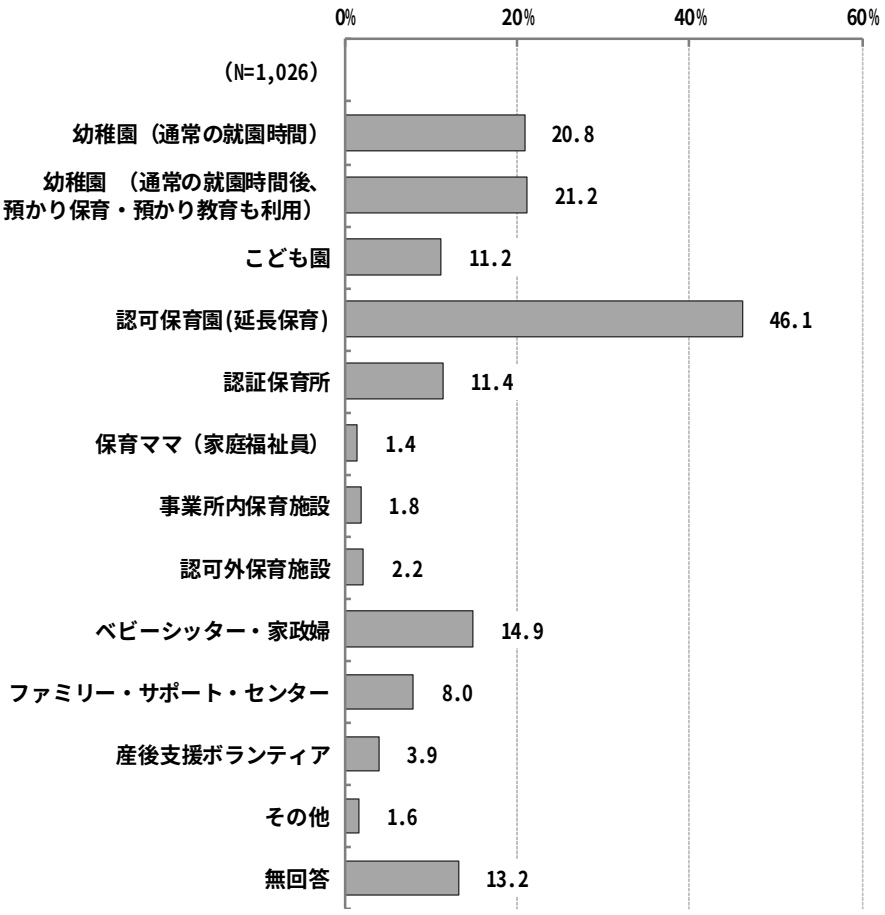
問　定期的な教育・保育事業を利用している理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。



③平日の教育・保育事業で定期的に利用したい事業

「認可保育園(延長保育)」の割合が最も高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間後、預かり保育・預かり教育も利用)」「幼稚園（通常の就園時間)」となっています。

問　現在利用している、利用していないに関わらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。



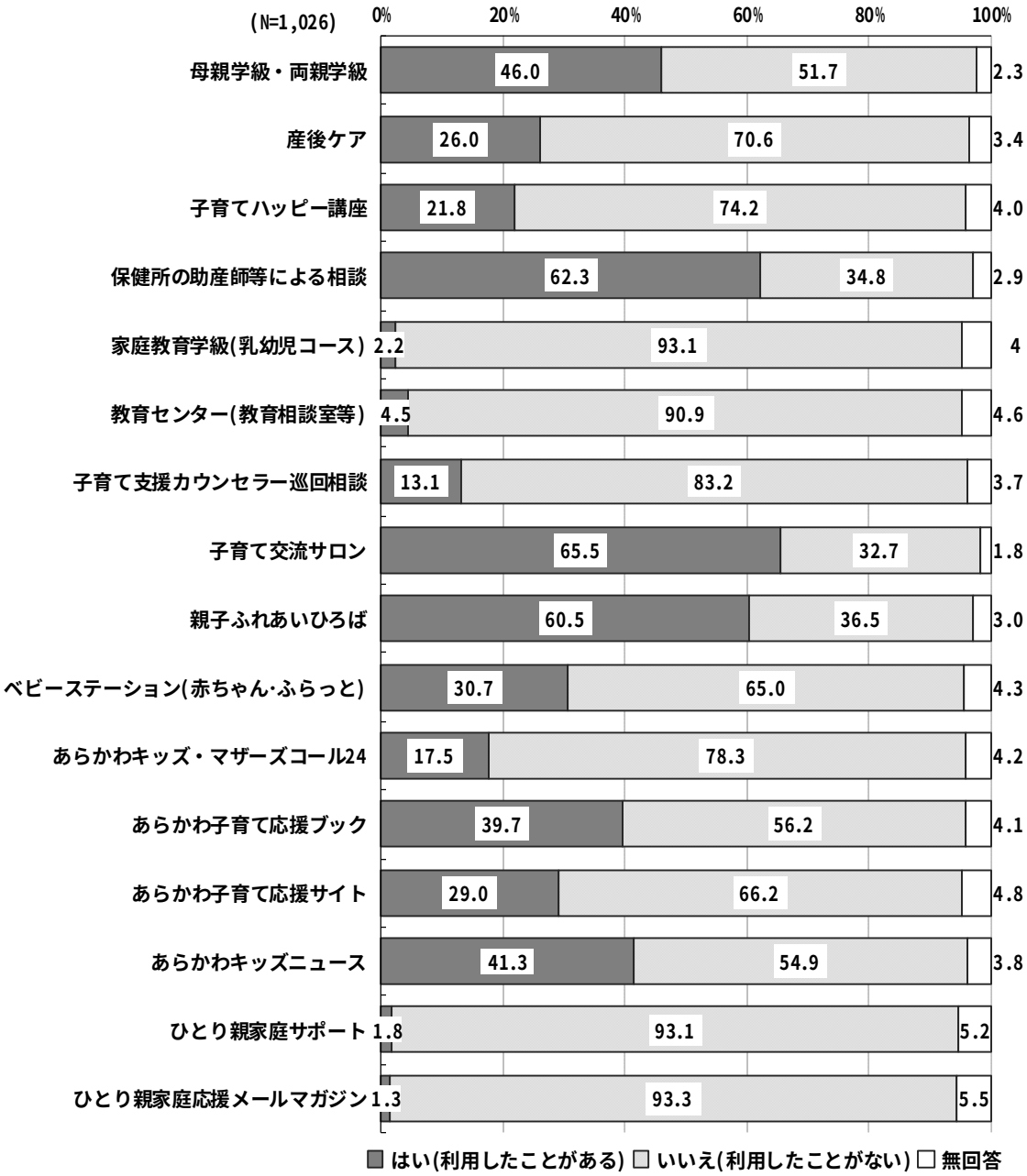
（4）地域の子育て支援事業の利用状況（未就学児世帯）

①子育て支援事業の利用経験

子育て支援事業の利用経験は、「保健所の助産師等による相談」「子育て交流サロン」「親子ふれあいひろば」は「利用したことがある」の割合が高くなっています。

一方で、「家庭教育学級（乳幼児コース）」「教育センター（教育相談室等）」「子育て支援カウンセラー巡回相談」「ひとり親家庭サポート」「ひとり親家庭応援メールマガジン」は「利用したことがない」の割合が高くなっています。

問　下記の事業ごとに、「これまでに利用したことがある」かについて、それぞれ「はい」「いいえ」のどちらか１つに○をつけてください。

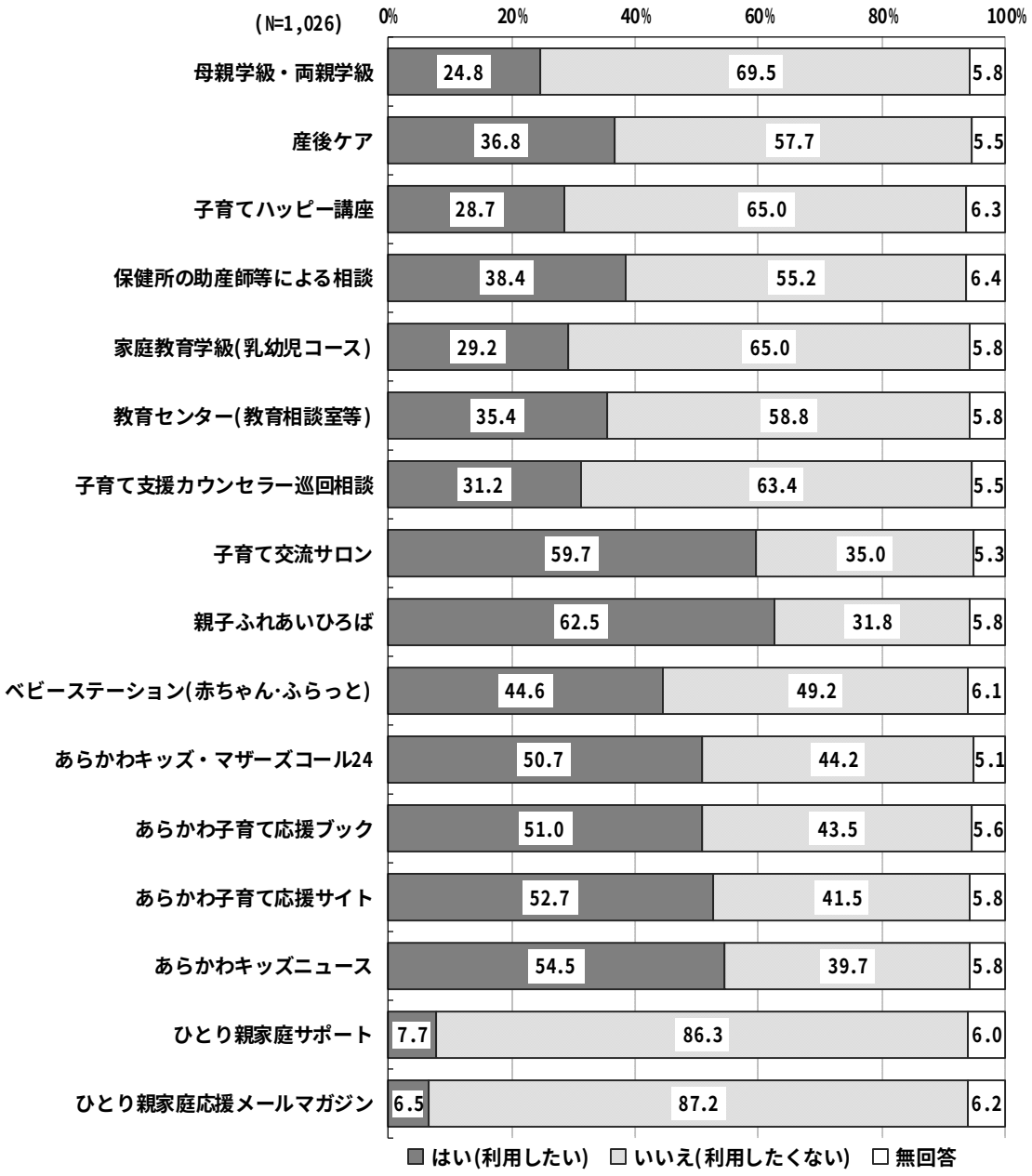


②今後の利用希望

子育て支援事業の今後の利用希望は、「子育て交流サロン」「親子ふれあいひろば」で「利用したい」の割合が特に高くなっています。

一方、「ひとり親家庭サポート」「ひとり親家庭応援メールマガジン」は「利用したくない」の割合が特に高くなっています。

問　下記の事業ごとに、「今後利用したい」かについて、それぞれ「はい」「いいえ」のどちらか1つに○をつけてください。



（５）土曜日、日曜日・祝日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望（未就学児世帯）

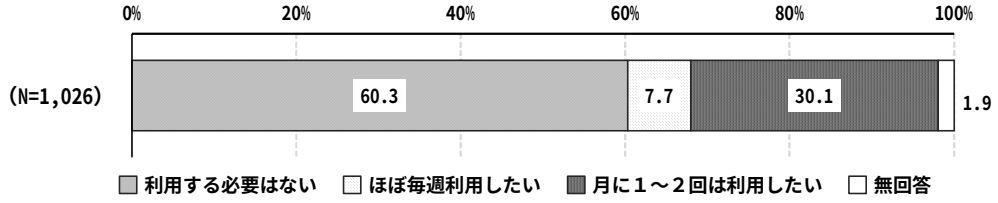
①未就学児の土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

土曜日、日曜日・祝日ともに、「利用する必要はない」の割合が最も高く、次いで「月に１～２回は利用したい」、「ほぼ毎週利用したい」となっています。

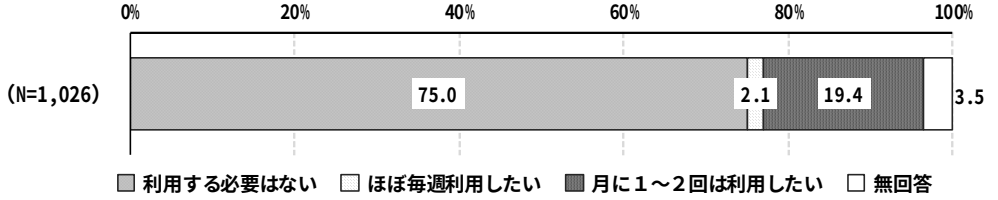
長期休暇中の幼稚園の利用希望は「休みの期間中、週に数日利用したい」が最も高くなっています。長期休暇中、毎日ではなく、たまに利用したい理由は「息抜きのため」が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」となっています。

問　あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。当てはまる番号１つに○をつけてください。

＜土曜日＞

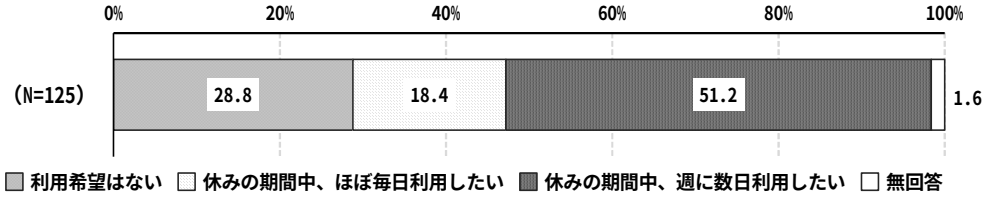


＜日曜日・祝日＞

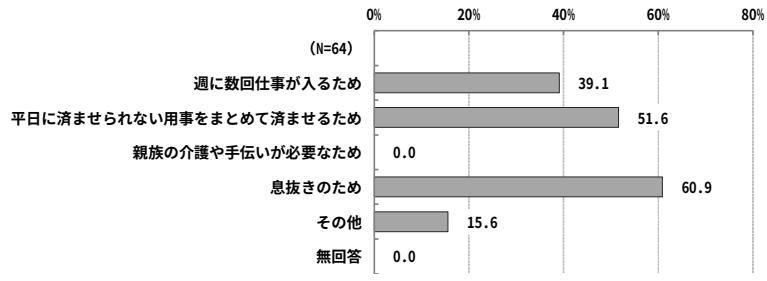


問　あて名のお子さんについて、夏休み・冬休み等長期の休暇期間中の幼稚園の利用希望はありますか。当てはまる番号１つに○をつけてください。

＜長期休暇中の幼稚園の利用希望＞



＜長期休暇中、毎日ではなく、たまに利用したい理由＞

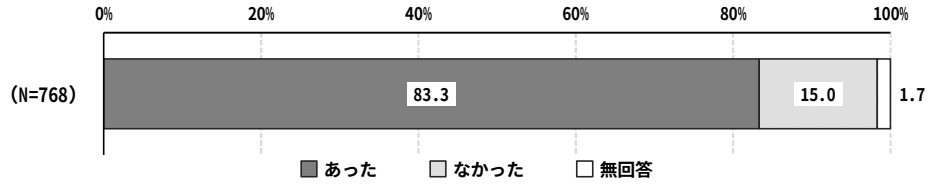


（６）病気の際の対応（未就学児世帯）

①子どもが病気やケガで事業が利用できなかったこと

「あった」が 83.3%、「なかった」が 15.0%となっています。

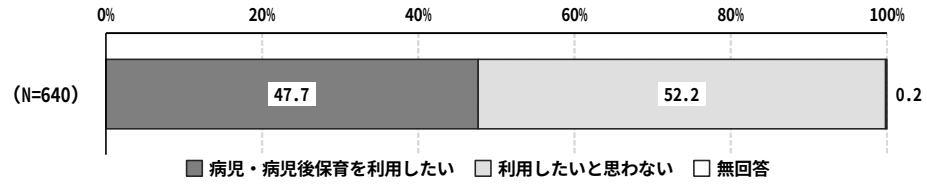
問　この１年間に、あて名のお子さんが病気やけがで幼稚園や保育園等を利用できなかったことはありますか。当てはまる番号１つに○をつけてください。



②利用希望

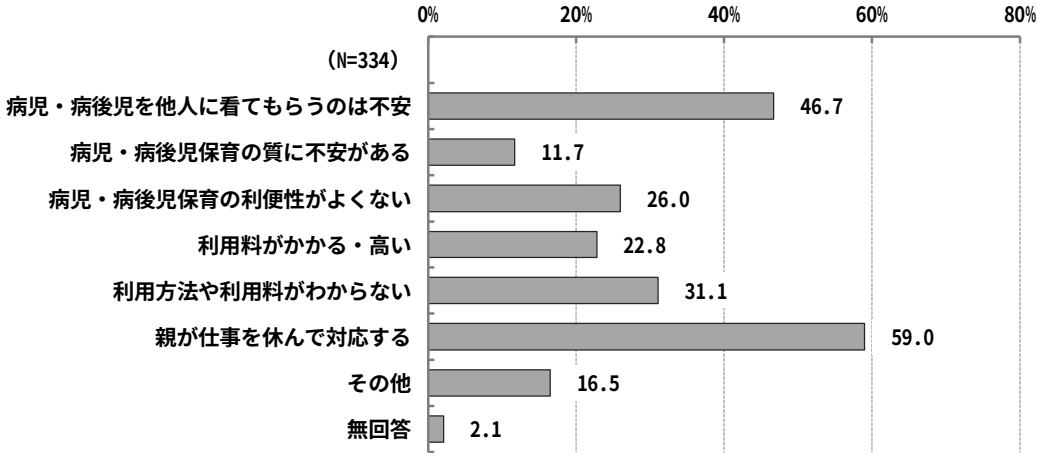
「病児・病児後保育を利用したい」が 47.7%、「利用したいと思わない」が 52.2%となっています。

問　その際、「病児・病後児のための保育サービスを利用したい」と思われましたか。当てはまる番号１つに○をつけてください。



③病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由

「親が仕事を休んで対応する」が 59.0%と最も多く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 46.7%、「利用方法や利用料がわからない」が 31.1%となっています。



（7）不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりの利用状況（未就学児世帯・就学児世帯）

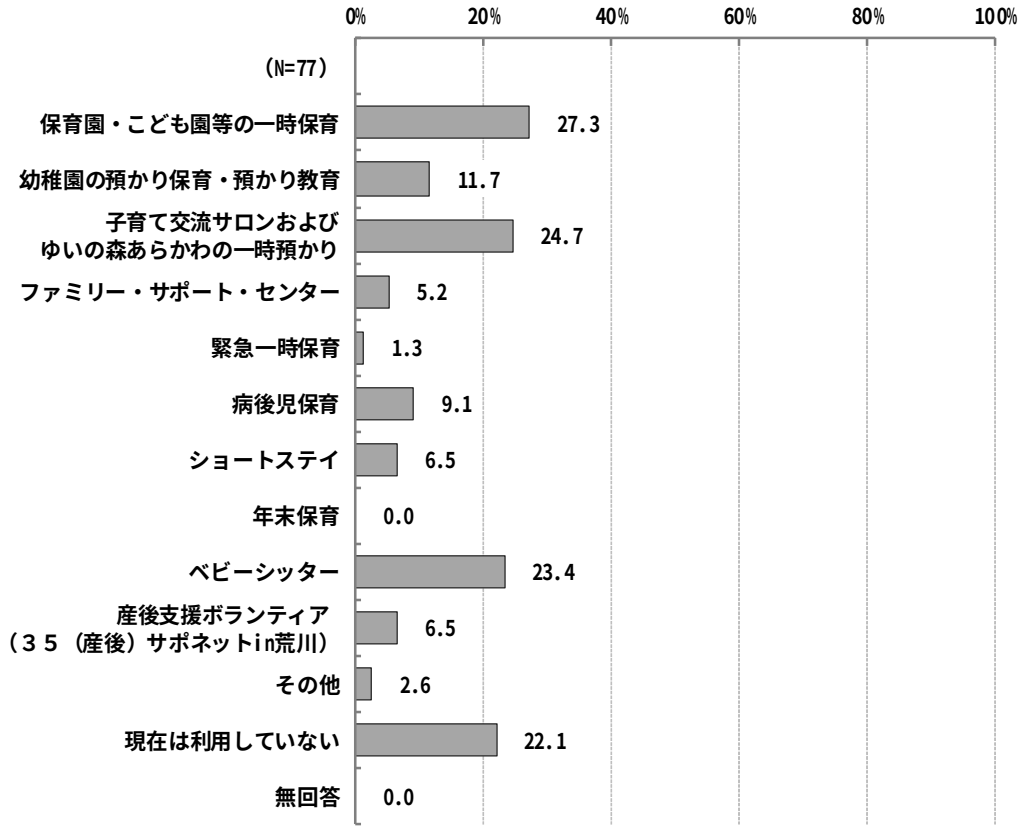
①不定期の教育・保育事業の利用状況

未就学児世帯では、「保育園・こども園等の一時保育」が最も高く、次いで「子育て交流サロンおよびゆいの森あらかわの一時預かり」「ベビーシッター」となっています。

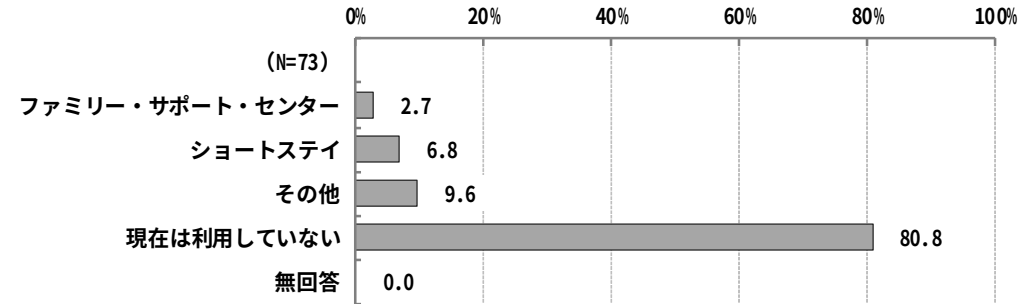
就学児世帯では、「現在は利用していない」が最も高くなっています。

問　あて名のお子さんについて、私用、親の通院、残業・休日出勤や不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞



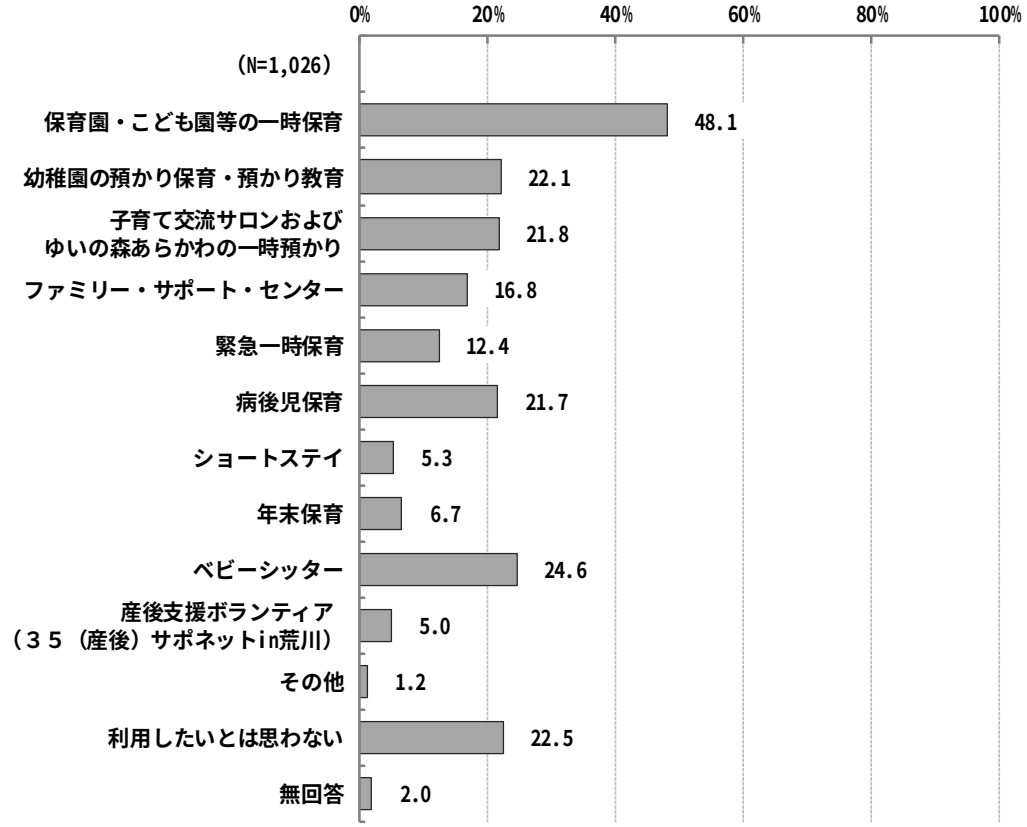
②不定期の教育・保育事業の利用希望

未就学児世帯では、「保育園・こども園等の一時保育」が最も高く、次いで「ベビーシッター」「利用したいとは思わない」となっています。

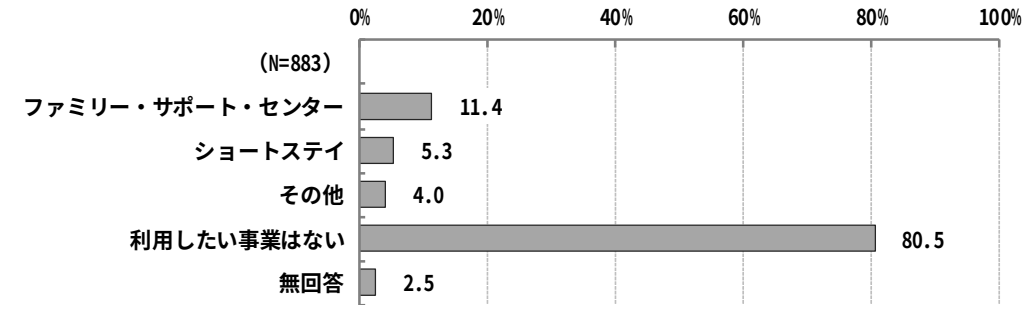
就学児世帯では、「利用したい事業はない」が最も高くなっています。

問　あて名のお子さんについて、私用、親の通院、残業・休日出勤や不定期の就労等の目的で利用したいと思う事業はありますか。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞

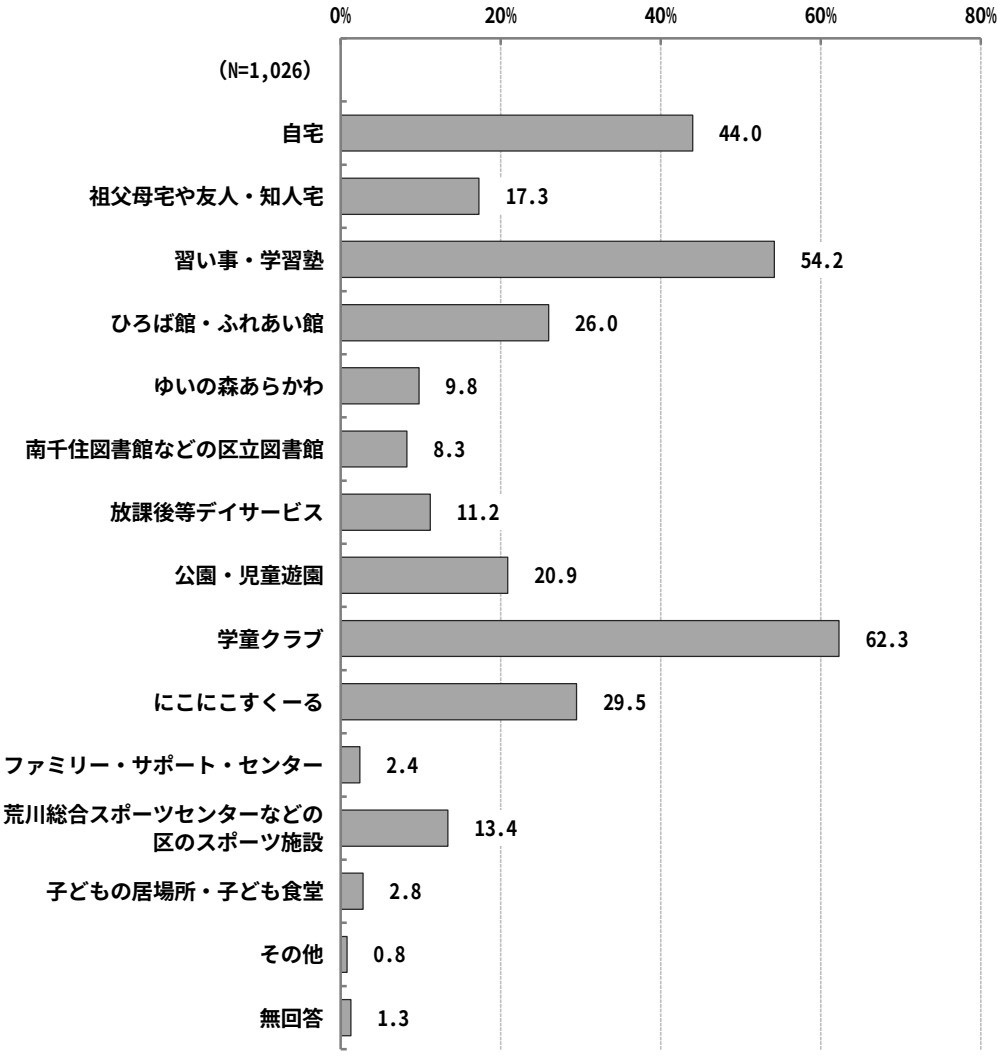


（8）子どもの放課後の過ごし方（未就学児世帯・就学児世帯）

①未就学児が小学生になったら、子どもに放課後過ごさせたい場所

「学童クラブ」が最も高く、次いで「習い事・学習塾」「自宅」となっています。

問　あて名のお子さんについて、小学生になったら、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいですか。

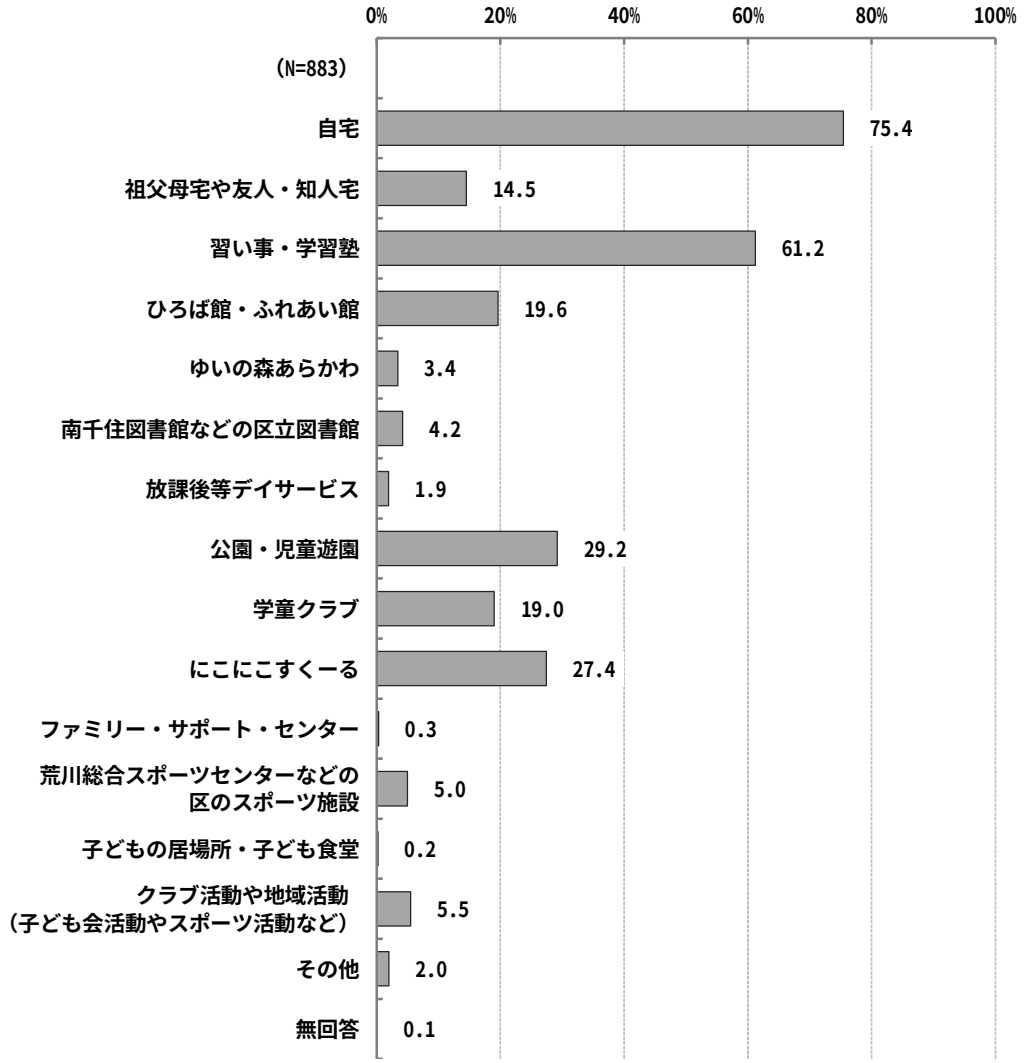


②就学児の放課後の過ごし方

「自宅」が最も高く、次いで「習い事・学習塾」「公園・児童遊園」となっています。

問　あて名のお子さんについて、放課後や土曜日、日曜日の時間をどのような場所で過ごしていますか。

＜放課後＞



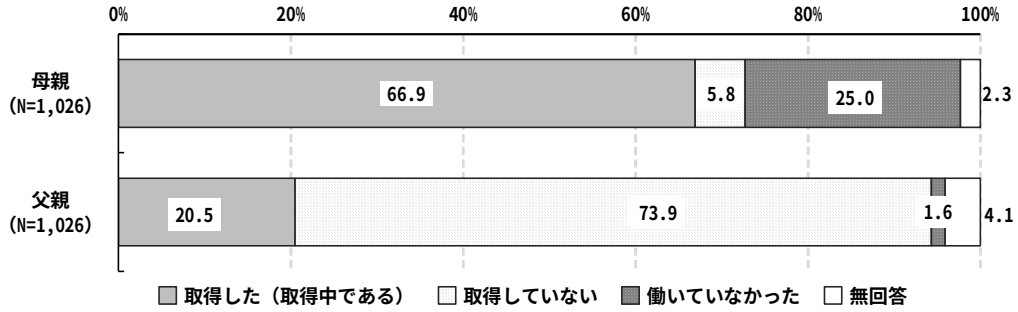
（9）子育てと職場の両立支援制度（未就学児世帯）

①育児休業の取得状況

母親は「取得した（取得中である）」が最も高く、次いで「働いていなかった」「取得していない」となっています。

父親は「取得していない」が最も高く、次いで「取得した（取得中である）」「働いていなかった」となっています。

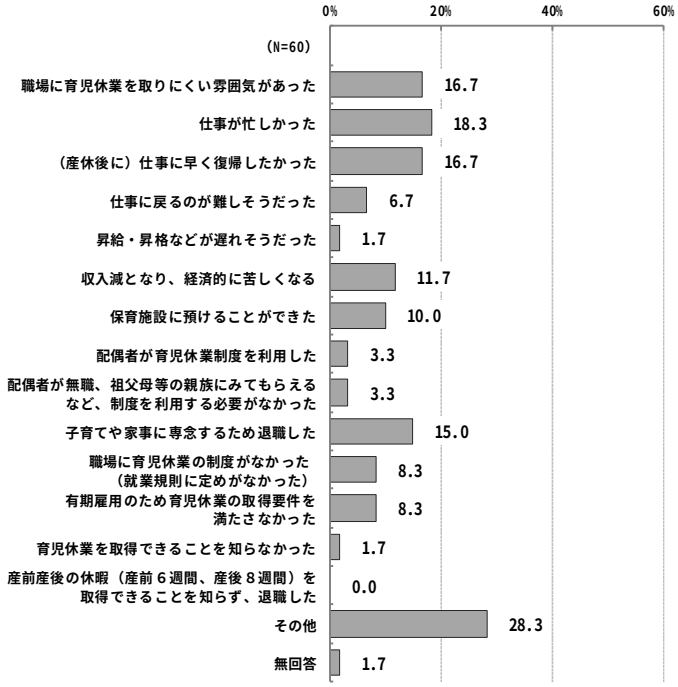
問　あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかまたは双方が育児休業を取得しましたか。
（1）父親、（2）母親それぞれについてお答えください。
また、取得していない方はその理由を選んでください。



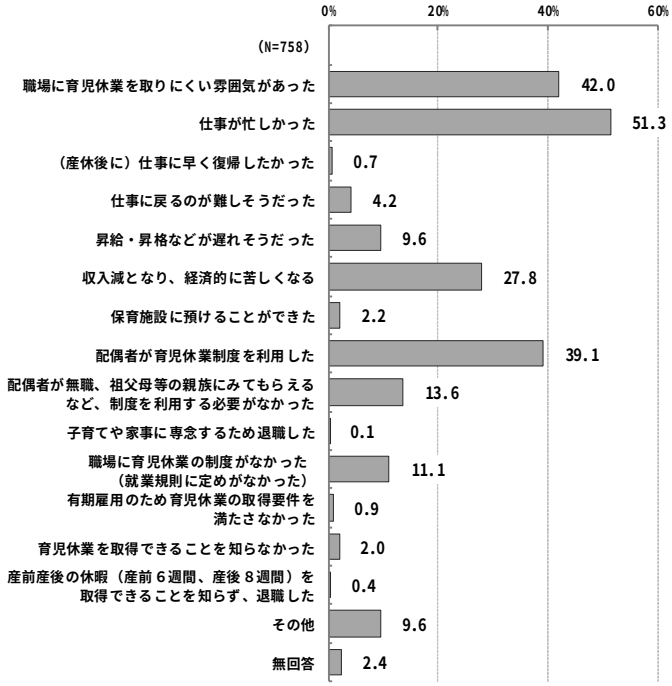
②育児休業を取得しなかった理由

父母ともに「仕事が忙しかった」が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」となっています。

＜母親＞



＜父親＞



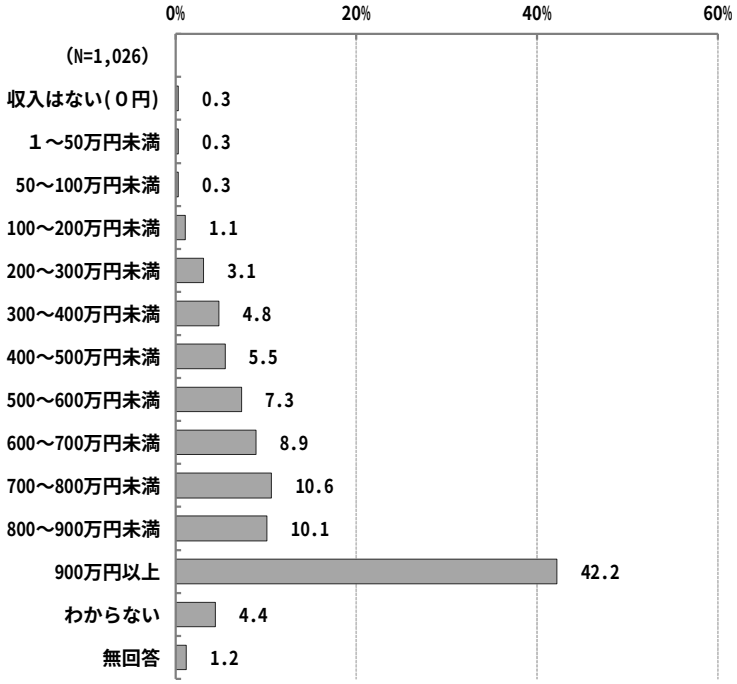
（10）生活実態について（未就学児世帯・就学児世帯）

①世帯年収について

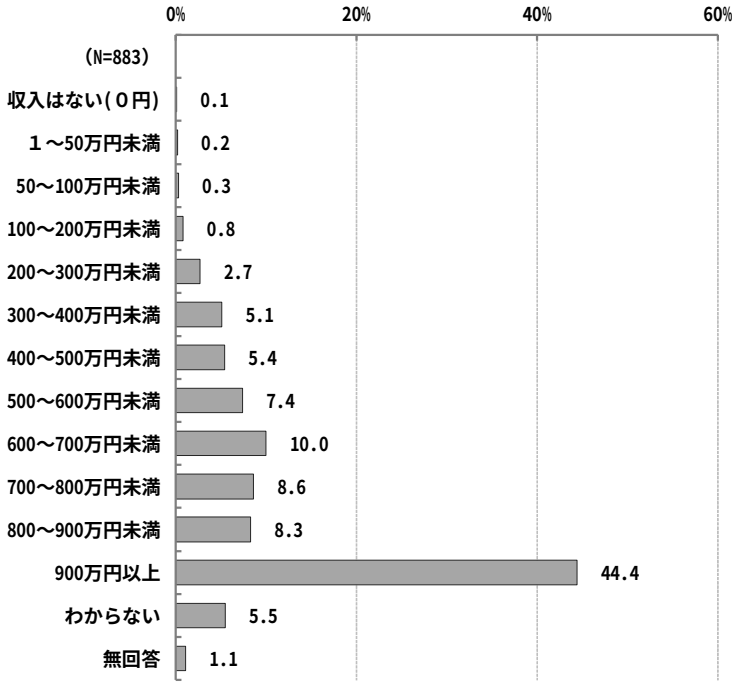
未就学児世帯、就学児世帯ともに「900 万円以上」が最も高くなっています。

問　あて名のお子さんと生計をともにしている世帯全員の方の、おおよその年間収入（税込）はいくらですか。当てはまる番号１つに○をつけてください。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞

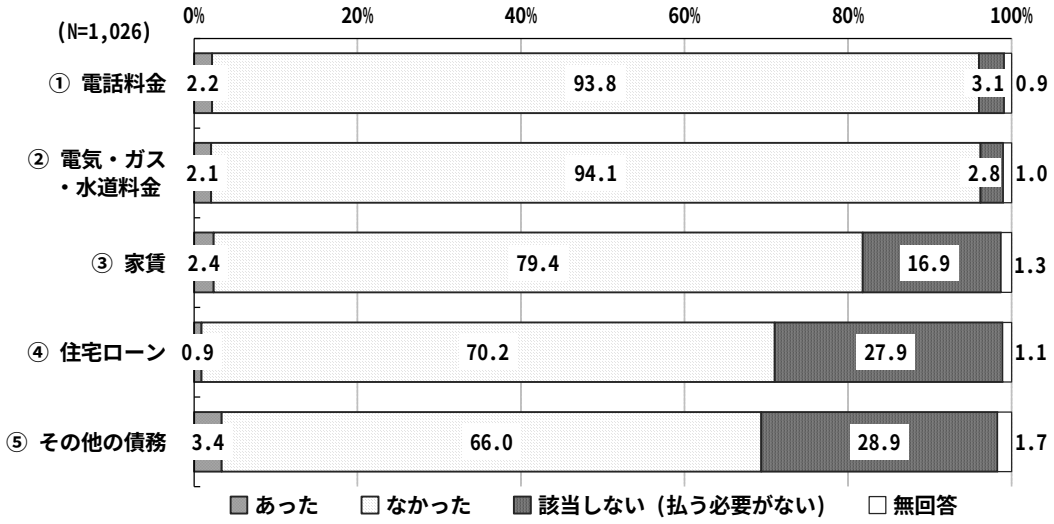


②光熱水費・家賃等の滞納の経験

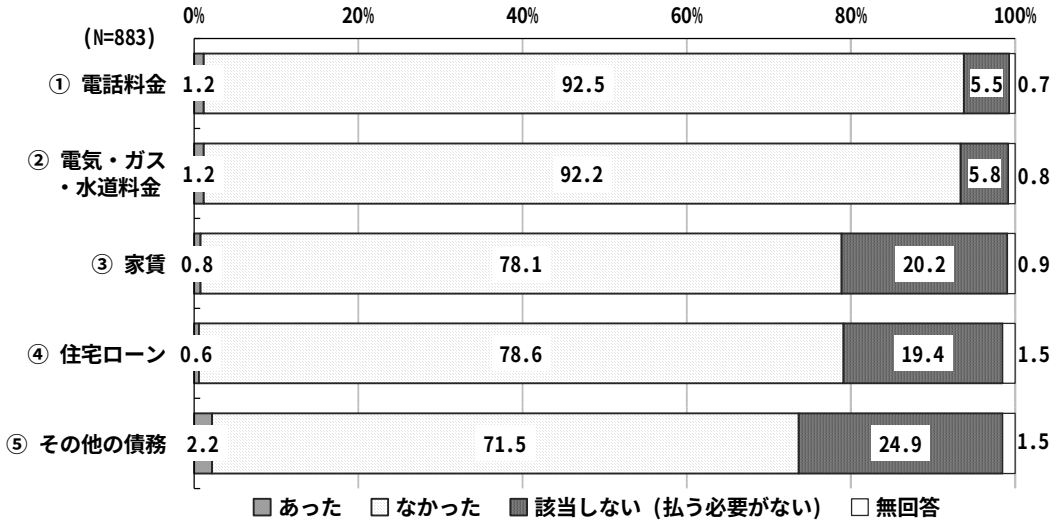
光熱水費、家賃の滞納の経験は、未就学児世帯、就学児世帯ともに、どのサービス・料金も「なかった」「該当しない（払う必要がない）」が大半を占めており、「あった」は、5.0%以下となっています。

問　過去１年間に、経済的な理由により以下の①～⑤のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。それぞれ当てはまる番号１つに○をつけてください。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞

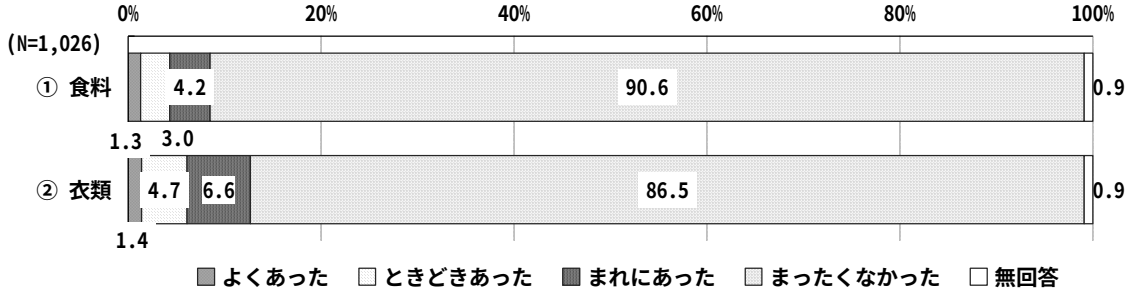


③食料、衣類が買えなかった経験

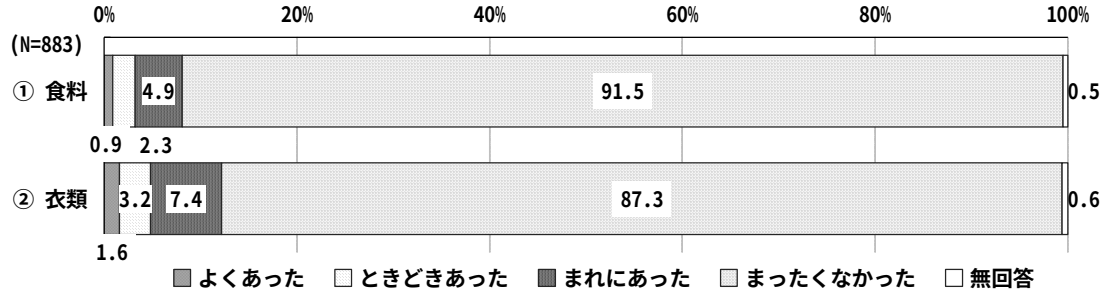
食料、衣類が買えなかった経験は、未就学児世帯、就学児世帯ともに「まったくなかった」が大半を占めており、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた「あった（計）」は、13.0%以下となっています。

> **問　あなたのご家庭では、過去１年間に、経済的な理由により家族が必要とする以下の①、②の物を買えないことがありましたか。それぞれ当てはまる番号１つに○をつけてください。**

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞



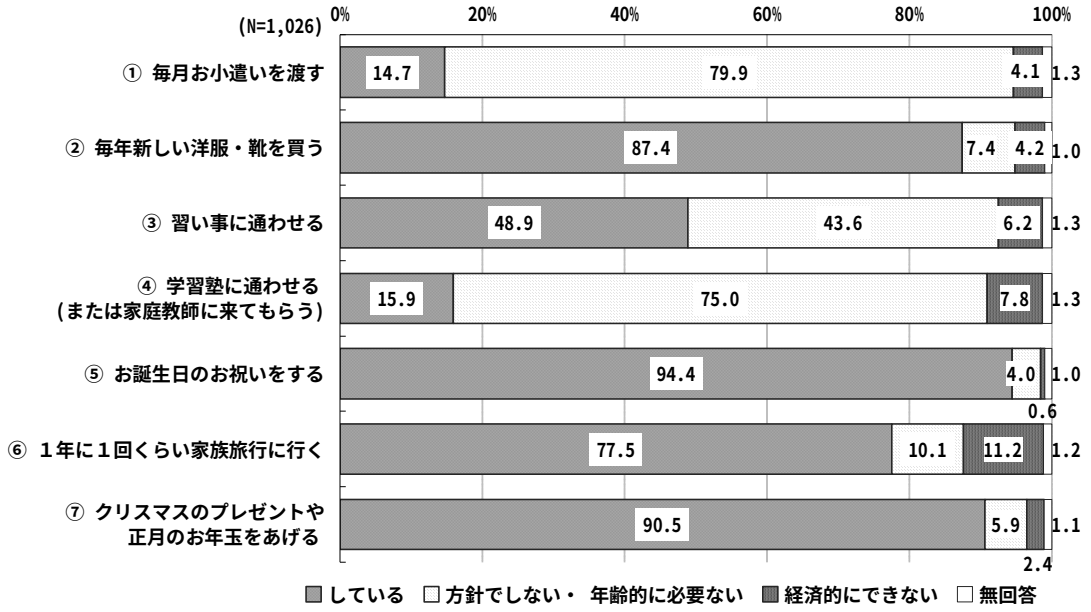
④経済的な理由で行っていないこと

①～⑦の経験のうち「②毎年新しい洋服・靴を買う」「⑤お誕生日のお祝いをする」「⑦クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」は、いずれも「している」の割合が高くなっています。

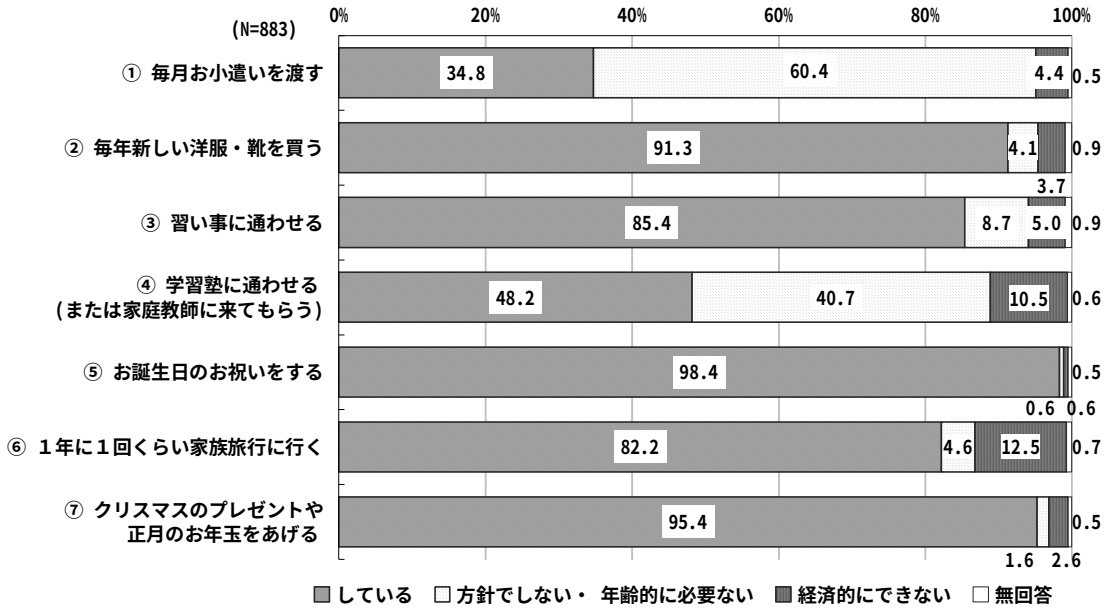
一方、「④学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」「⑥１年に１回くらい家族旅行に行く」では、「経済的にできない」の割合が１割前後となっています。

問　あなたのご家庭では、過去１年間に、経済的な理由により家族が必要とする以下の①～⑦の物が買えなかったり、できなかったりしたことがありましたか。
それぞれ当てはまる番号１つに○をつけてください。

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞



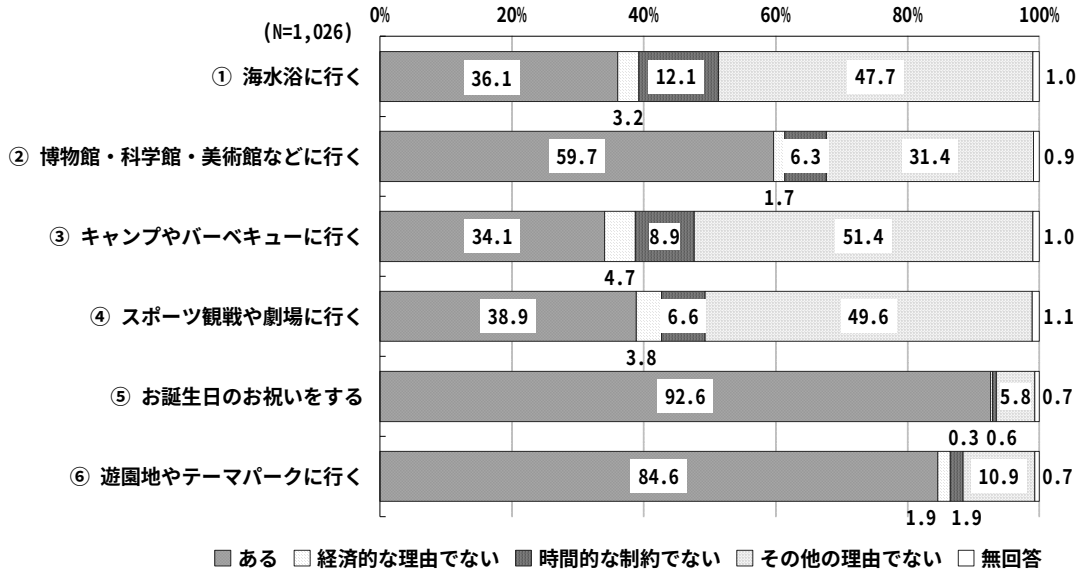
⑤過去１年間の外出の経験

過去１年間の外出（遊園地等）の経験は「⑤お誕生日のお祝いをする」「⑥遊園地やテーマパークに行く」が 80.0%を超えて高くなっています。

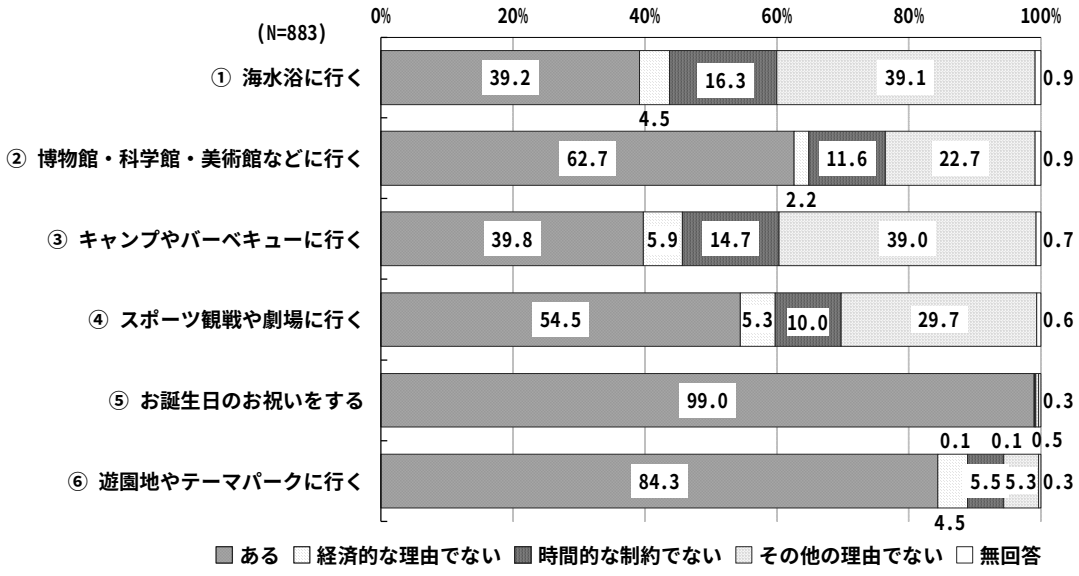
一方、「経済的な理由でない」は「③キャンプやバーベキューに行く」が未就学児世帯では 4.7%、就学児世帯では 5.9%と最も高くなっています。

問　あなたのご家庭では、過去１年間に、あて名のお子さんと次の①～⑥のような経験をしましたか。それぞれ当てはまる番号１つに○をつけてください

＜未就学児世帯＞



＜就学児世帯＞



◆生活困難度

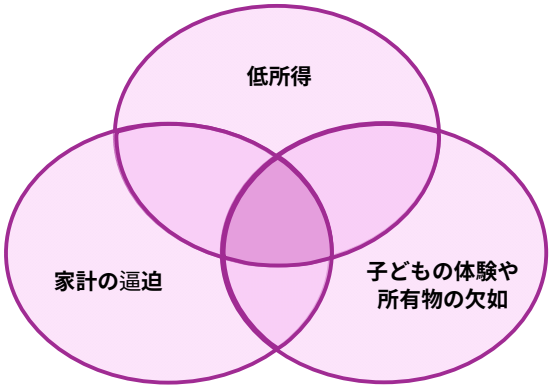
第２期荒川区子ども・子育て支援計画と比較するため、同様の考え方である、低所得、家計のひっ迫、子どもの体験・所有物の欠如の３つの要素に基づいて、①～⑤の設問により調査し、「生活困難」の分類を行いました。

低所得 （設問①）	子どもが１人の場合は年間収入３００万円未満、 子どもが２人以上の場合は年間収入４００万円未満の方
家計のひっ迫 （設問②・③）	経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣服が買えなかったなどの項目のうち、１つ以上が該当する方
子どもの体験・所有物の欠如（設問④・⑤）	子どもの経験や所有物に関する項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が３つ以上該当する方

そして、次の図のとおり、上記１～３の２つ以上に該当する層を「困窮層」、１つに該当する層を「周辺層」として位置づけました。

◆生活困難層（困窮層・周辺層）、一般層

生活困難層		困窮層＋周辺層
	困窮層	２つ以上の要素に該当
	周辺層	いずれか１つの要素に該当
一般層		いずれの要素にも該当しない



その結果、未就学児世帯の生活困難度は「生活困難層」が 19.9%、「一般層」が 80.1%となっています。「生活困難層」の内訳をみると、「困窮層」が 8.2%、「周辺層」が 11.7%となっています。前回と比べると生活困難層が増加しています。

就学児世帯の生活困難度は、「生活困難層」が 19.7%、「一般層」が 80.3%となっています。「生活困難層」の内訳をみると、「困窮層」が 6.5%、「周辺層」が 13.2%となっています。前回と比べると差はほとんどありません。

≪未就学児世帯≫

		令和５年度		平成30年度	
生活困難層		204 件	19.9 %	204 件	15.5 %
	困窮層	84 件	8.2 %	61 件	4.6 %
	周辺層	120 件	11.7 %	143 件	10.9 %
一般層		820 件	80.1 %	1,109 件	84.5 %

≪就学児世帯≫

		令和５年度		平成30年度	
生活困難層		192 件	19.7 %	249 件	20.0 %
	困窮層	67 件	6.5 %	81 件	6.5 %
	周辺層	125 件	13.2 %	168 件	13.5 %
一般層		685 件	80.3 %	997 件	80.0 %

2　小学５年生、中２・高２相当

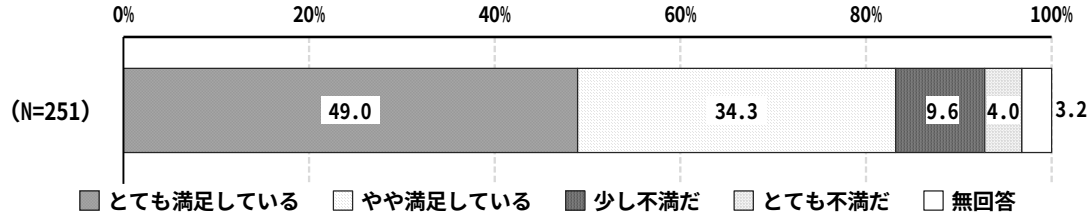
（1）学校（仕事）生活について

①学校生活（仕事）の満足度

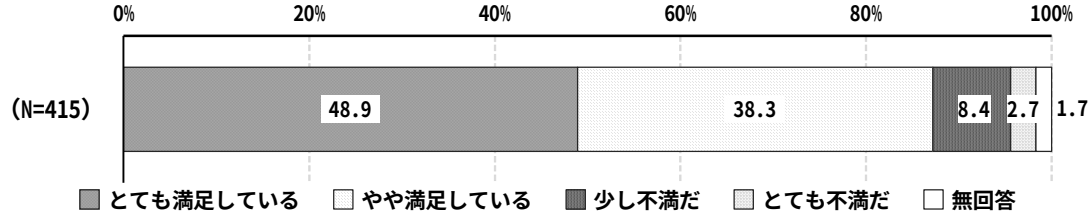
小学５年生、中２・高２相当ともに「とても満足している」の割合が最も高くなっています。

問　あなたは、学校（仕事）生活にどのくらい満足していますか。
当てはまるもの１つに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞



（2）放課後（仕事後）や休日の生活について

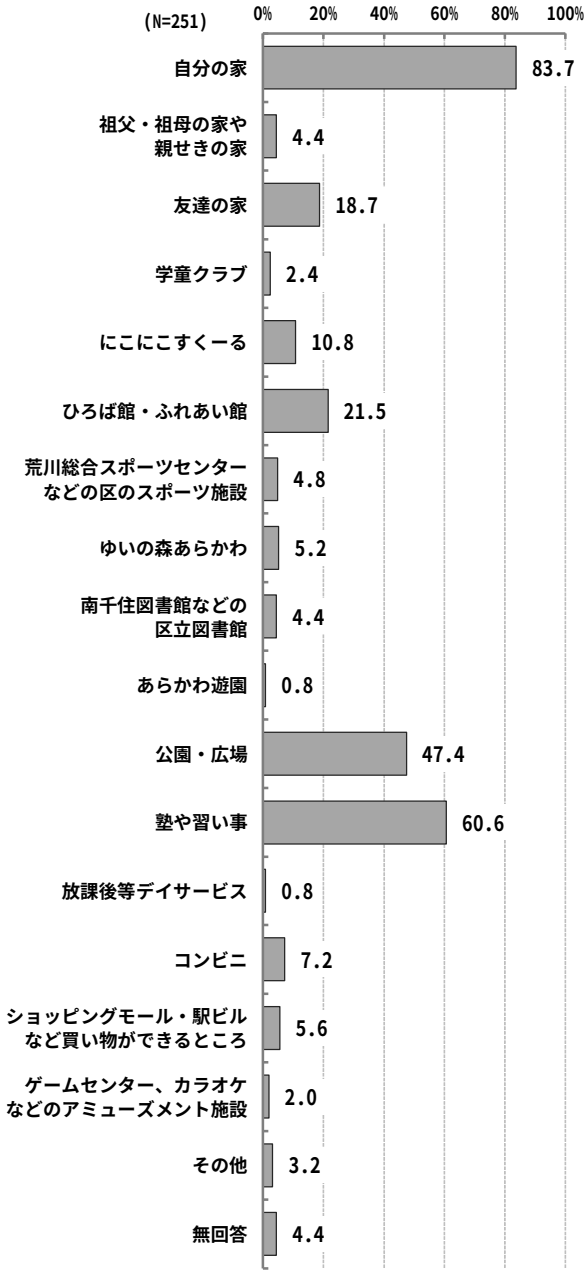
①放課後や休日、過ごす場所（放課後）

小学校５年生では、「自分の家」の割合が最も高く、次いで「塾や習い事」「公園・広場」となっています。

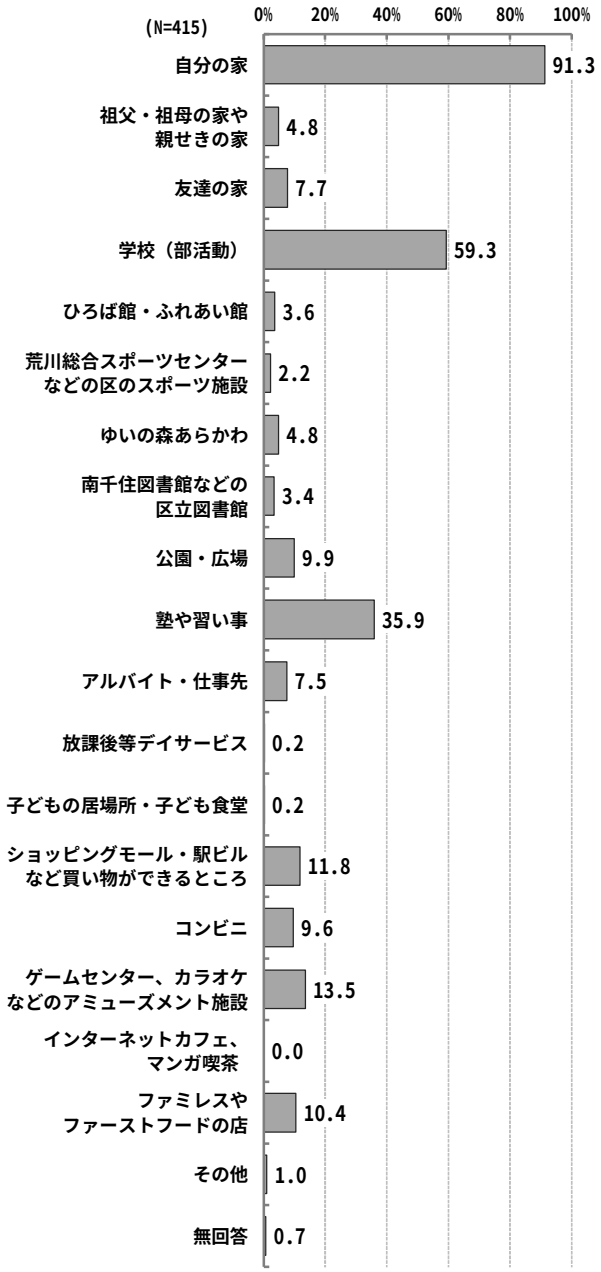
中２・高２相当では、「自分の家」の割合が最も高く、次いで「学校（部活動）」「塾や習い事」となっています。

問　あなたは放課後（仕事の後）や休日にどこで過ごすことが多いですか。
当てはまるものすべてに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞

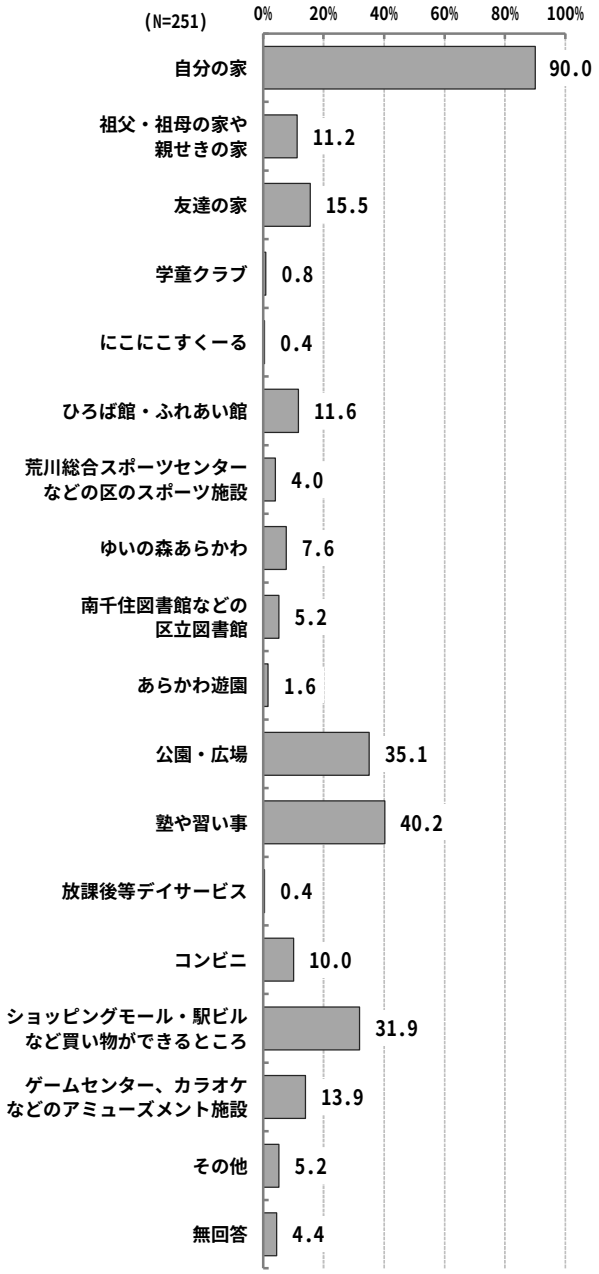


②放課後や休日、過ごす場所（休日）

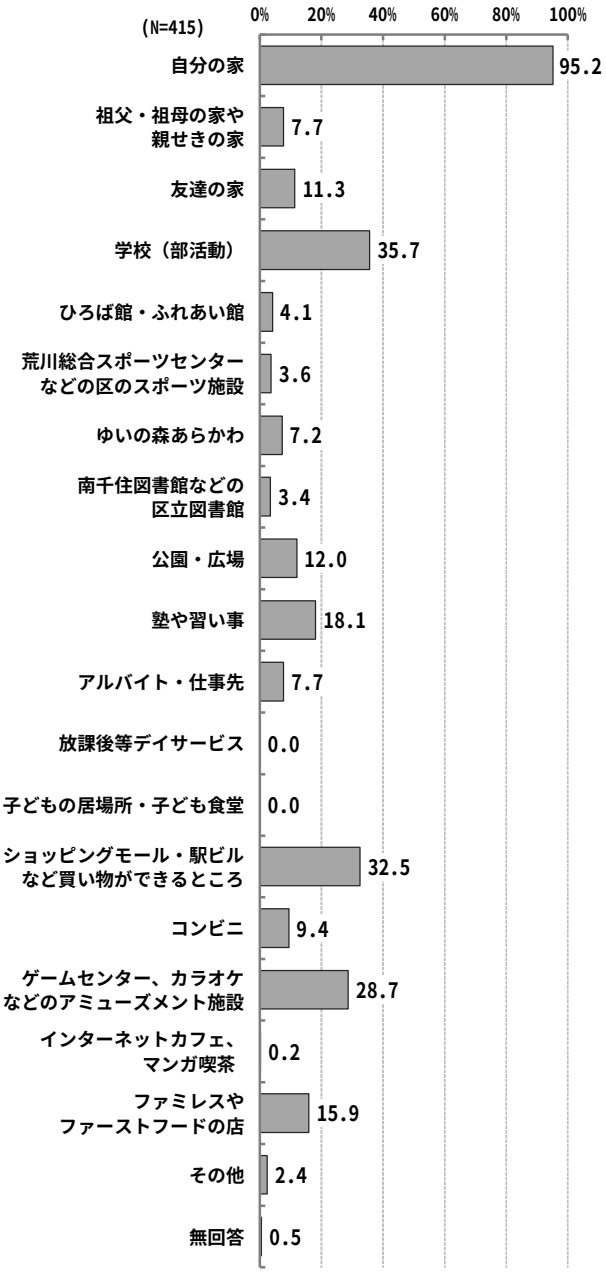
小学校５年生では、「自分の家」の割合が最も高く、次いで「塾や習い事」「公園・広場」となっています。

中２・高２相当では、「自分の家」の割合が最も高く、次いで「学校（部活動）」「ショッピングモール・駅ビルなど買い物ができるところ」となっています。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞



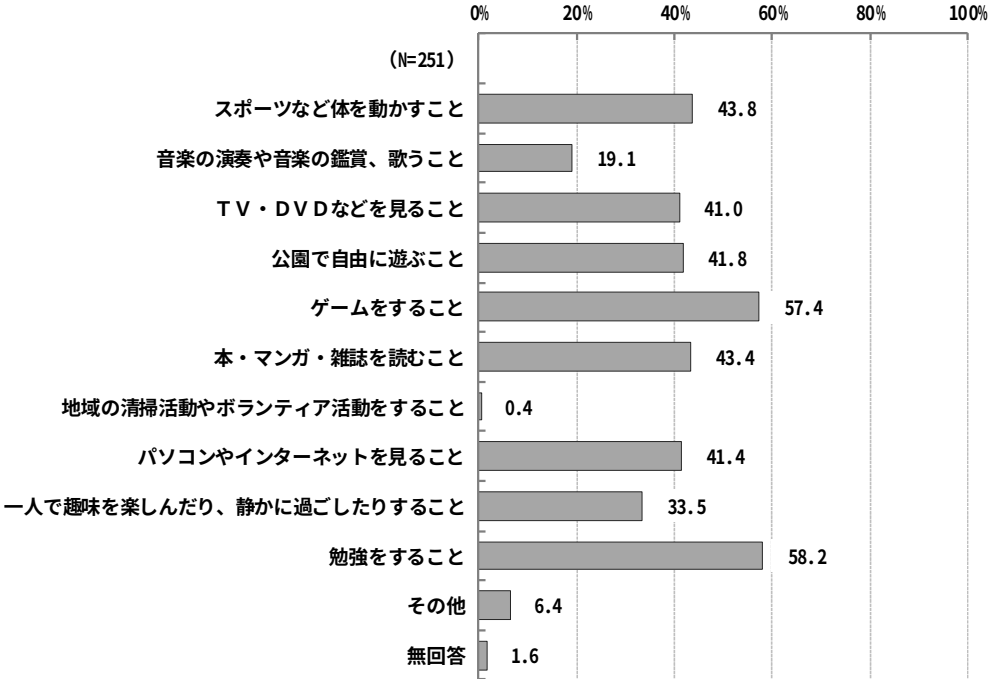
③放課後や休日、何をして過ごすか（放課後）

小学５年生では、「勉強をすること」の割合が最も高く、次いで「ゲームをすること」「スポーツなど体を動かすこと」となっています。

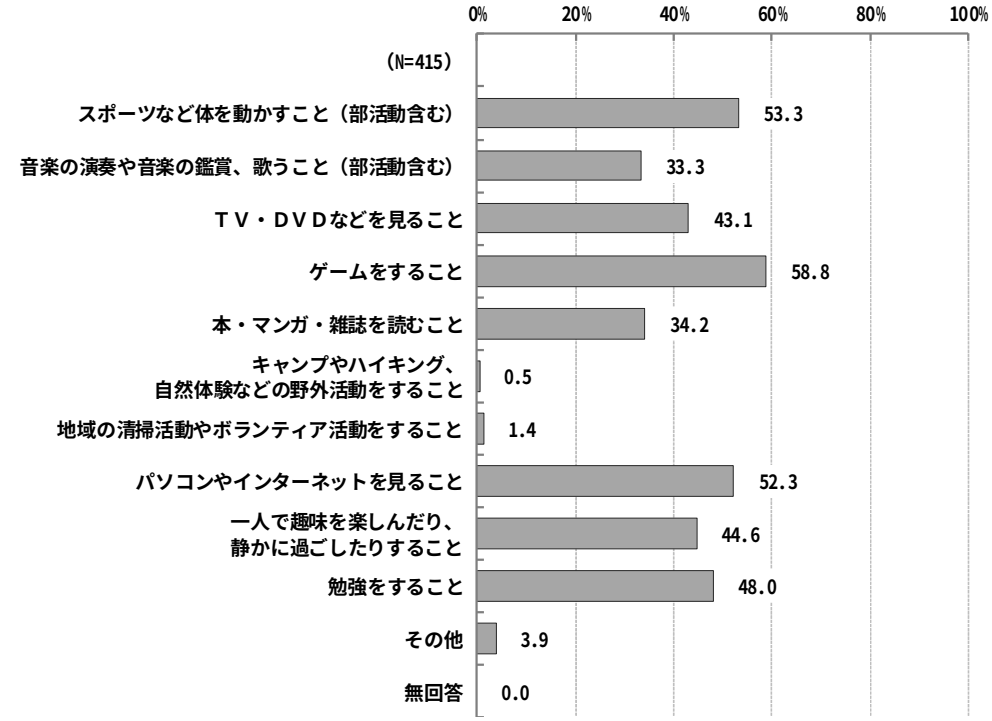
中２・高２相当では、「ゲームをすること」の割合が最も高く、次いで「スポーツなど体を動かすこと」「パソコンやインターネットを見ること」となっています。

問　あなたは放課後（仕事の後）や休日に何をして過ごすことが多いですか。
当てはまるものすべてに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞



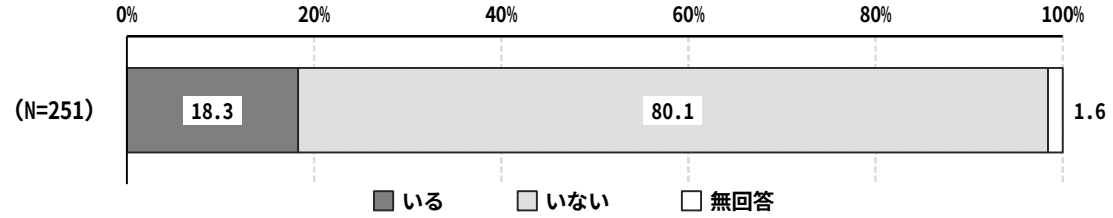
（3）お世話の状況等について

①日常的に家族のお世話や家事をしているか

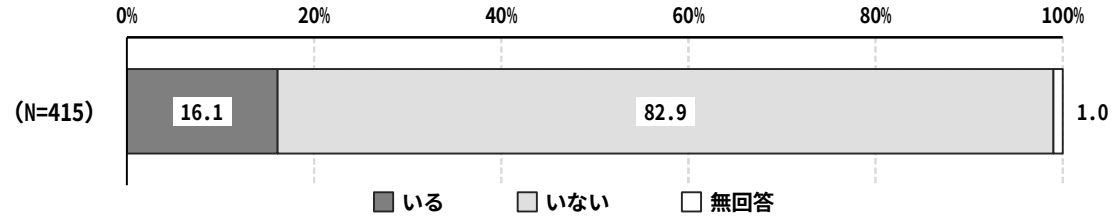
小学５年生では、「いる」が 18.3%、中２・高２相当では、16.1%となっています。

> **問　あなたは、日常的に家族のお世話や家事をしていますか。**
> **当てはまるもの１つに○をつけてください。**

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞

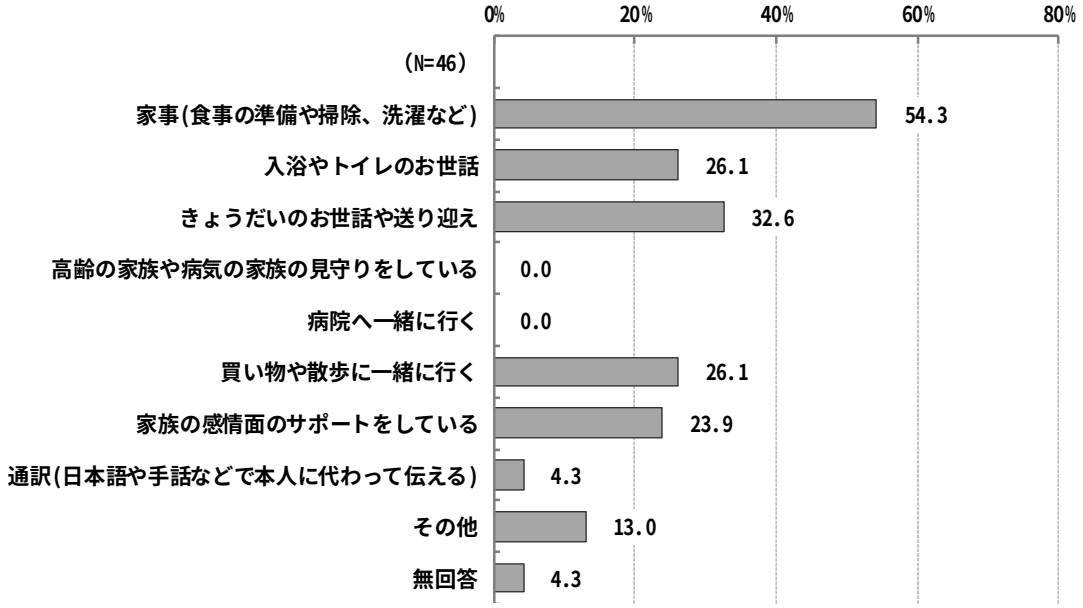


②お世話の内容

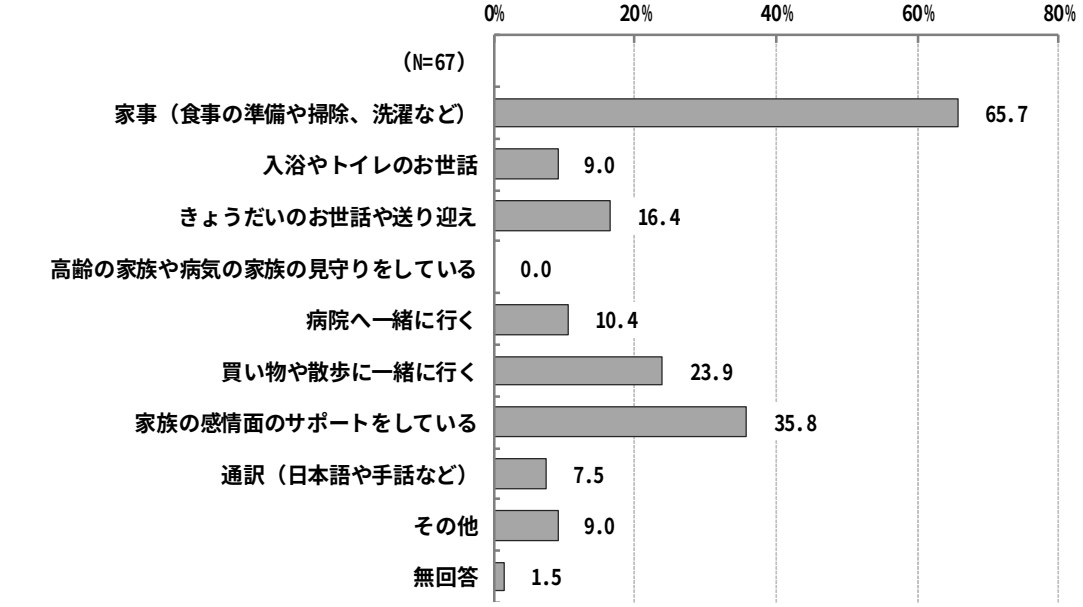
小学５年生、中２・高２相当ともに、「家事（食事の準備や掃除、洗濯など）」の割合が最も高くなっています。小学５年生では、次いで「きょうだいのお世話や送り迎え」、中２・高２相当では、「家族の感情面のサポートをしている」となっています。

問　あなたはどのようなお世話をしていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞

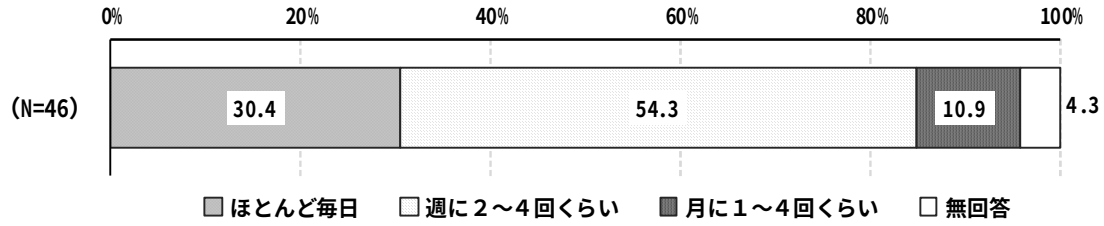


③お世話をしている回数

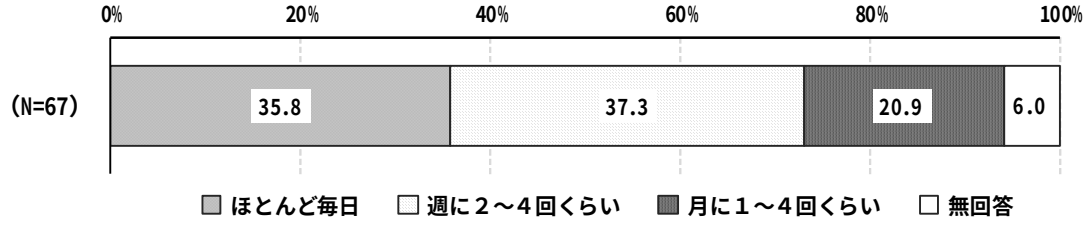
小学５年生、中２・高２相当ともに「週に２～４回くらい」の割合が最も高くなっています。

問　あなたがお世話をしている頻度はどのくらいですか。
当てはまるもの１つに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞



（４）区の施設や事業の利用頻度等について

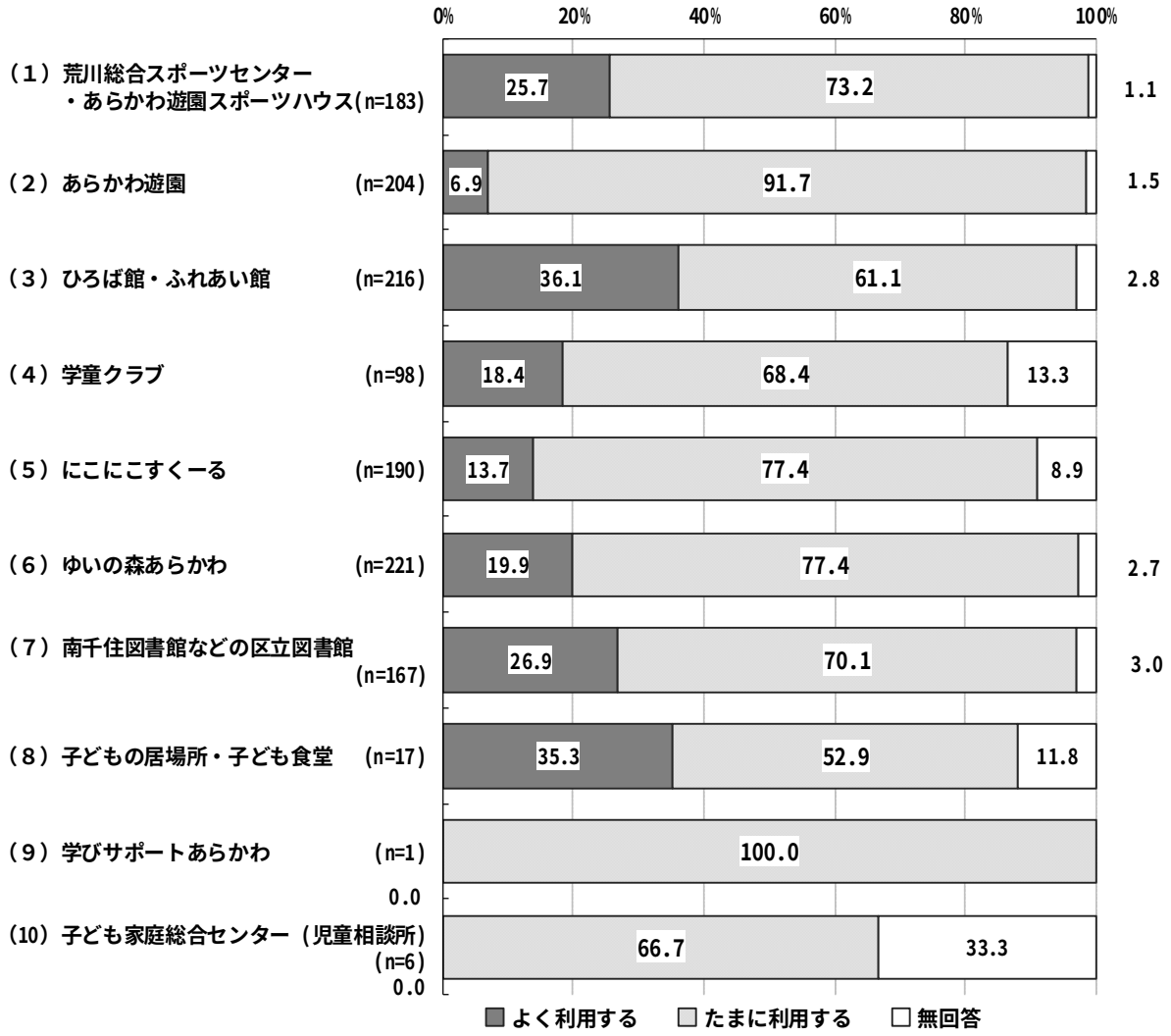
①施設や事業の利用頻度

小学５年生では、“よく利用する”施設や事業は、「ひろば館・ふれあい館」が最も高く、次いで「子どもの居場所・子ども食堂」「南千住図書館などの区立図書館」となっています。

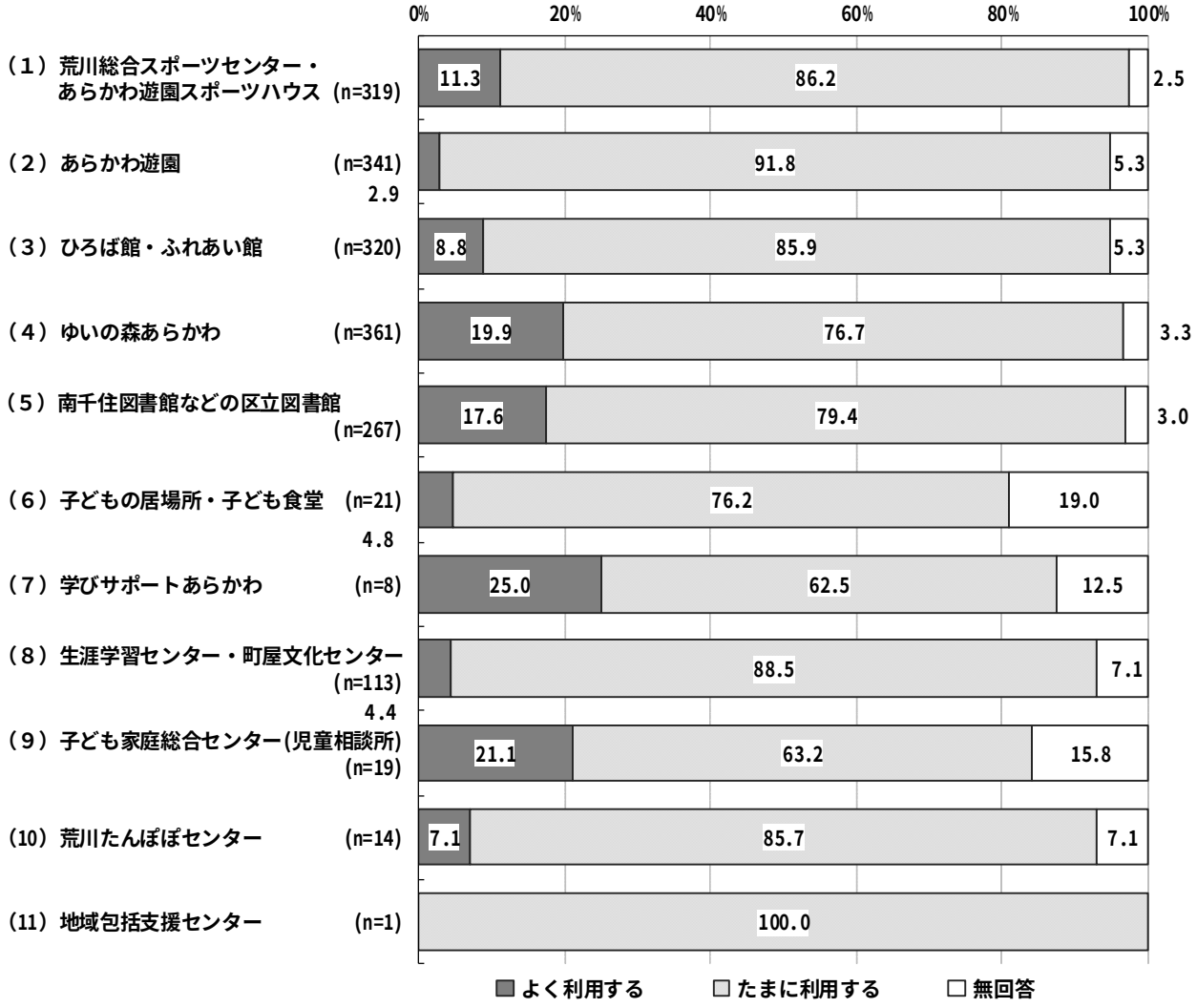
中２・高２相当では、“よく利用する”施設や事業は、「学びサポートあらかわ」が最も高く、次いで「子ども家庭総合センター(児童相談所)」「ゆいの森あらかわ」となっています。

問　あなたは区の施設（場所）や事業（取組）を利用する回数はどのくらいですか。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
（１）荒川総合スポーツセンター・あらかわ遊園スポーツハウス (n=319)
11.3
86.2
2.5
（２）あらかわ遊園 (n=341)
91.8
5.3
2.9
（３）ひろば館・ふれあい館 (n=320)
8.8
85.9
5.3
（４）ゆいの森あらかわ (n=361)
19.9
76.7
3.3
（５）南千住図書館などの区立図書館 (n=267)
17.6
79.4
3.0
（６）子どもの居場所・子ども食堂 (n=21)
76.2
19.0
4.8
（７）学びサポートあらかわ (n=8)
25.0
62.5
12.5
（８）生涯学習センター・町屋文化センター (n=113)
88.5
7.1
4.4
（９）子ども家庭総合センター(児童相談所) (n=19)
21.1
63.2
15.8
（10）荒川たんぽぽセンター (n=14)
7.1
85.7
7.1
（11）地域包括支援センター (n=1)
100.0
よく利用する
たまに利用する
無回答

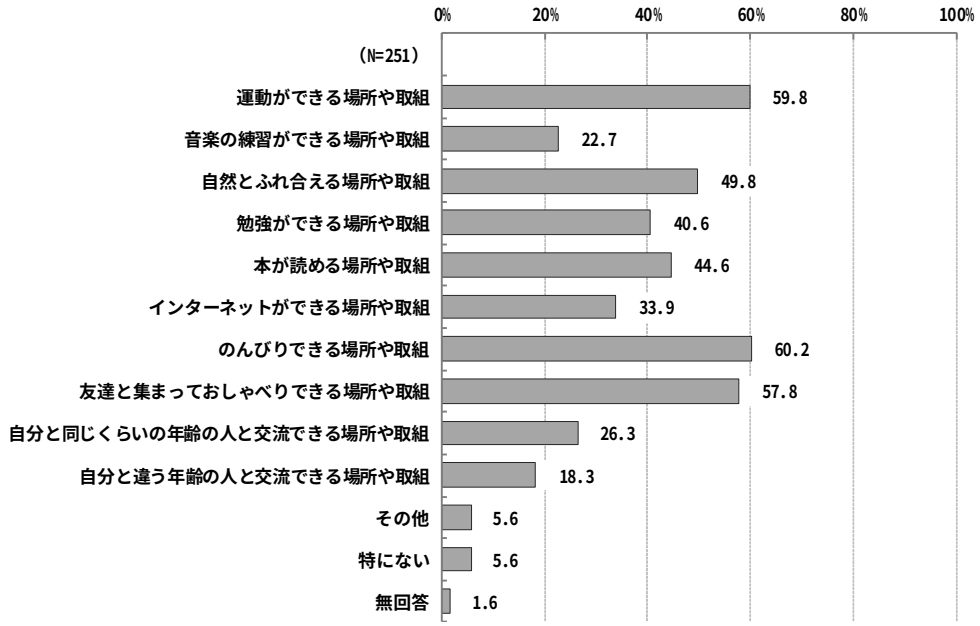
（５）区に求める施設・事業について

小学５年生では、「のんびりできる場所や取組」が最も高く、次いで「運動ができる場所や取組」「友達と集まっておしゃべりできる場所や取組」となっています。

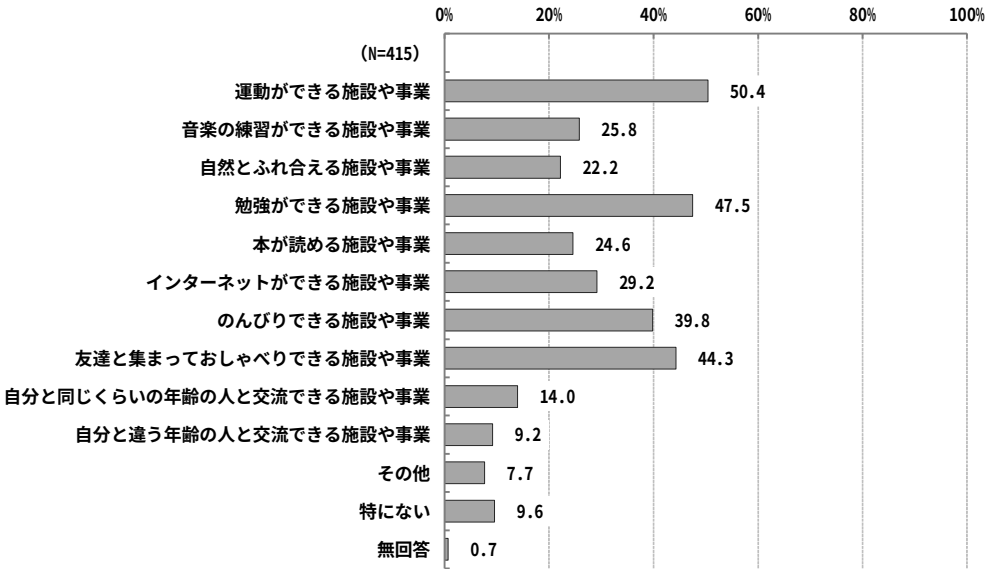
中２・高２相当は、「運動ができる施設や事業」が最も高く、次いで「勉強ができる施設や事業」「友達と集まっておしゃべりできる施設や事業」となっています。

問　荒川区にどのような施設（場所）や事業（取組）があると良いと思いますか。
当てはまるものすべてに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞



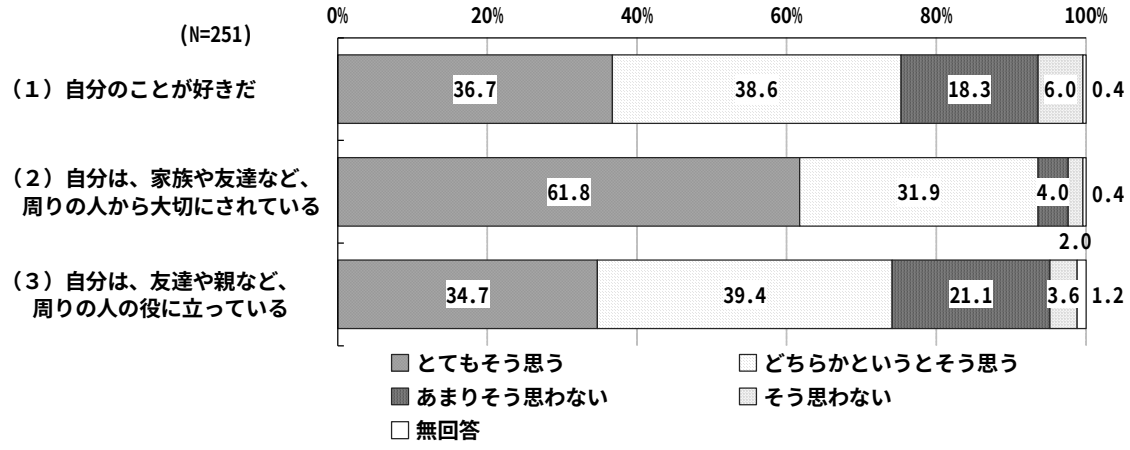
（6）自己肯定感について

小学５年生では、「自分は、家族や友達など、周りの人から大切にされている」は、“そう思う”（「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計）が、93.7%と最も高くなっています。

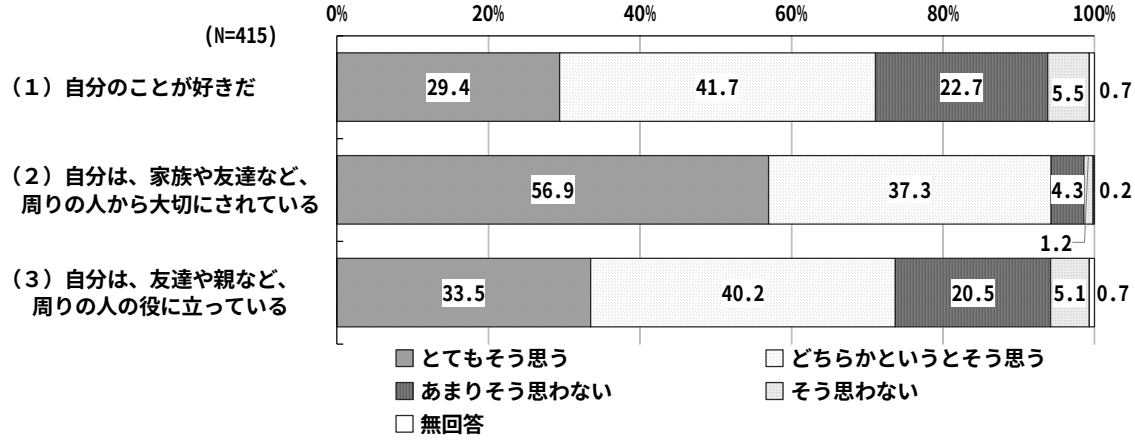
中２・高２相当においても、「自分は、家族や友達など、周りの人から大切にされている」は“そう思う”が、94.2%と最も高くなっています。

問　あなたは、自分のことについてどのように感じていますか。
（1）～（3）について、「1」～「4」のいずれか１つに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞



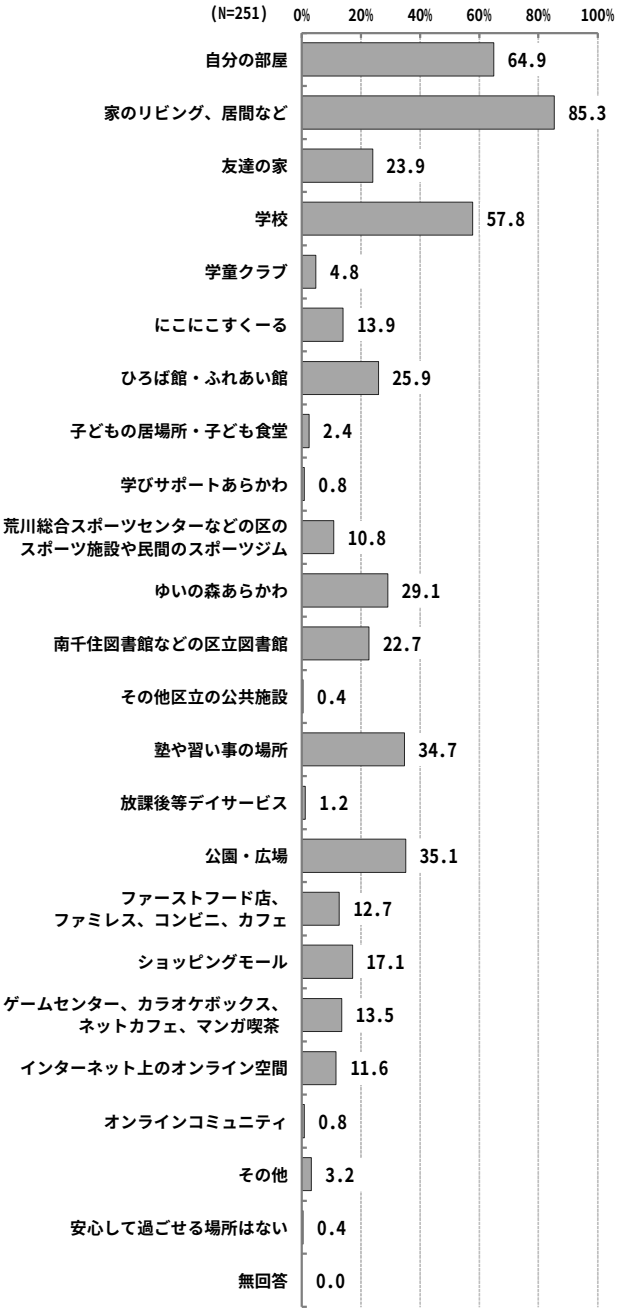
（7）安心して過ごせる場所について

小学５年生では、「家のリビング、居間など」が最も高く、次いで「自分の部屋」「学校」となっています。

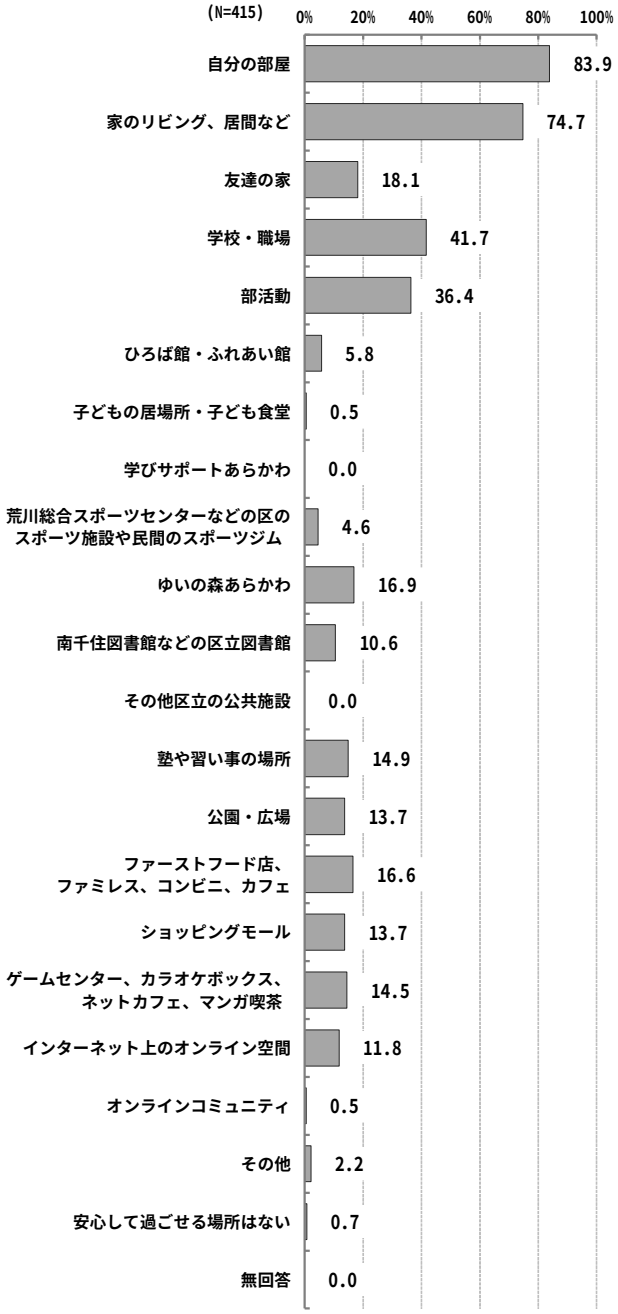
中２・高２相当は、「自分の部屋」が最も高く、次いで「家のリビング、居間など」「学校・職場」となっています。

問　あなたには、安心して過ごせる場所はありますか。
当てはまるものすべてに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞



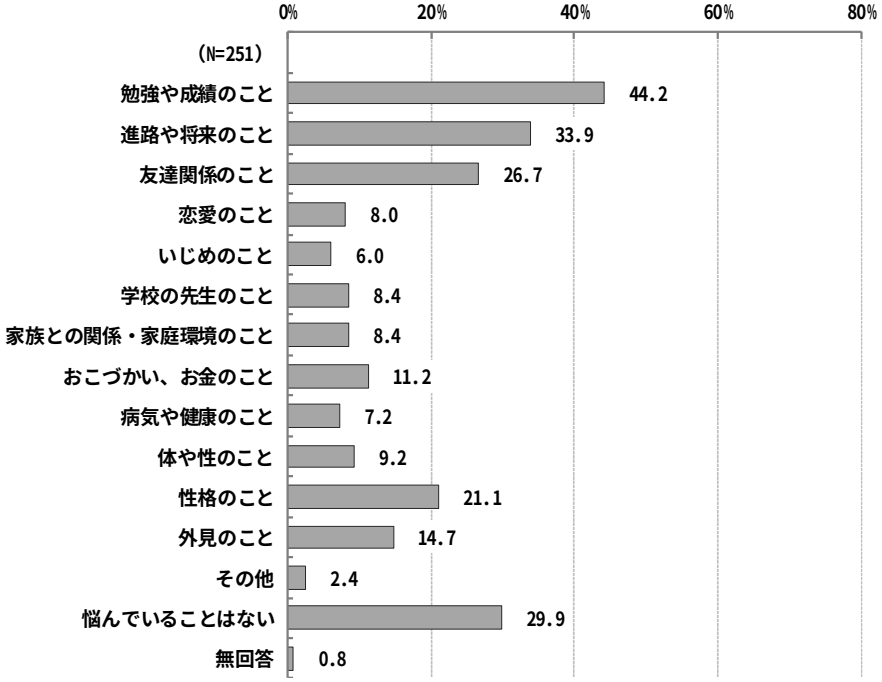
（8）悩みごとについて

小学５年生では、「勉強や成績のこと」が最も高く、次いで「進路や将来のこと」「悩んでいることはない」となっています。

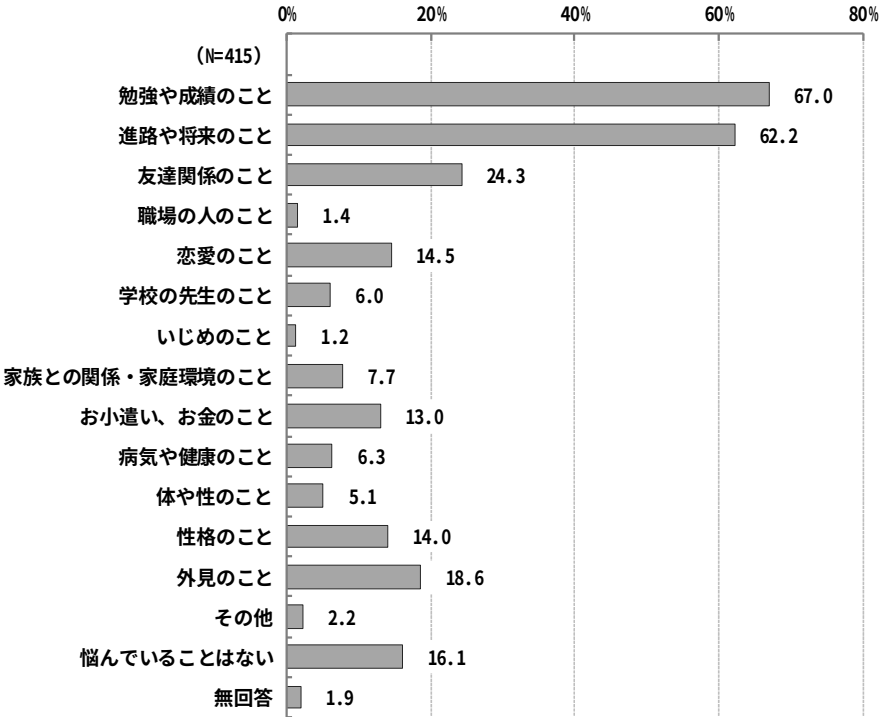
中２・高２相当では、「勉強や成績のこと」が最も高く、次いで「進路や将来のこと」「友達関係のこと」となっています。

問　あなたには、悩み事や困っていることはありますか。
当てはまるものすべてに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞



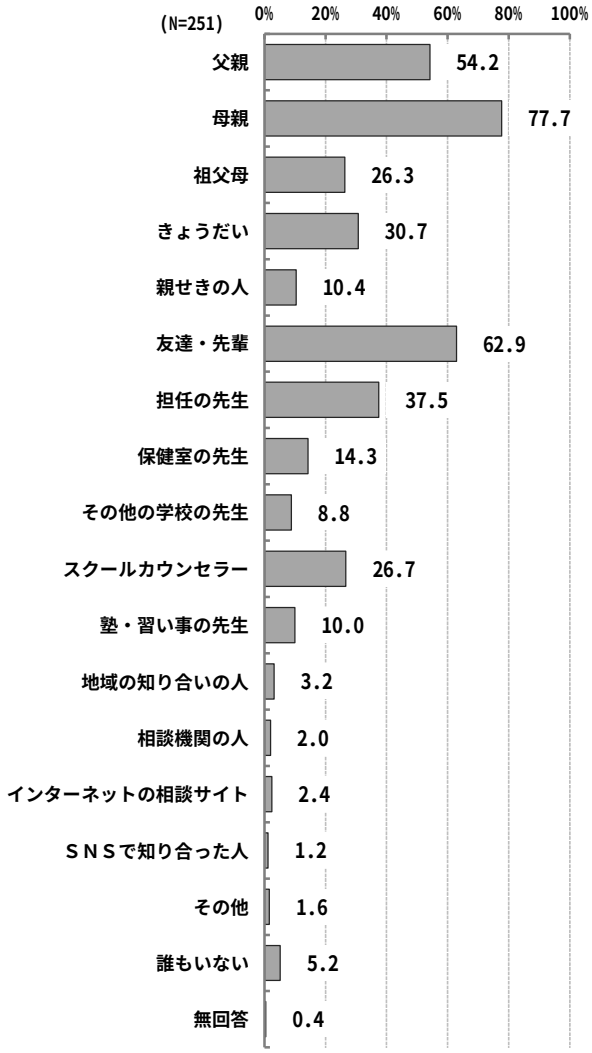
（9）相談相手の有無について

小学５年生では、「母親」が最も高く、次いで「友達・先輩」「父親」となっています。

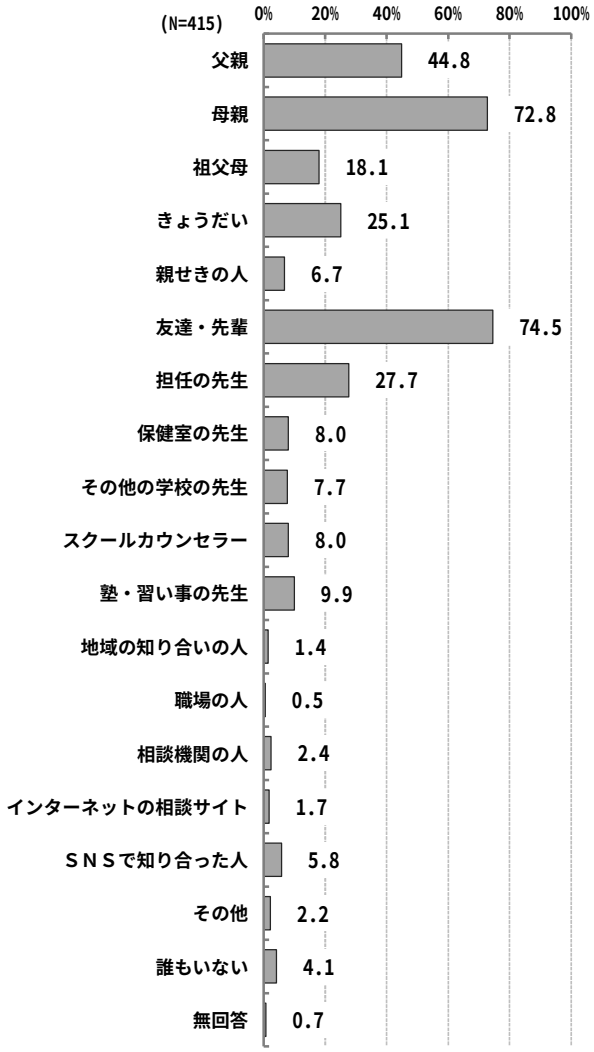
中２・高２相当は、「友達・先輩」が最も高く、次いで「母親」「父親」となっています。

問　あなたには、悩み事や困っていることを相談できる人はいますか。
当てはまるものすべてに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞

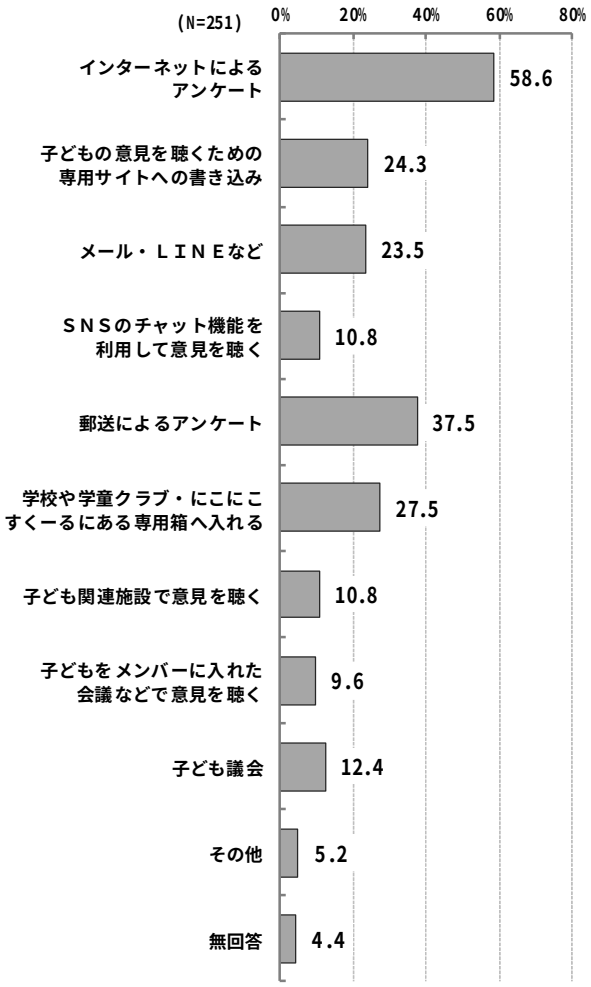


（10）子どもからの意見聴取について

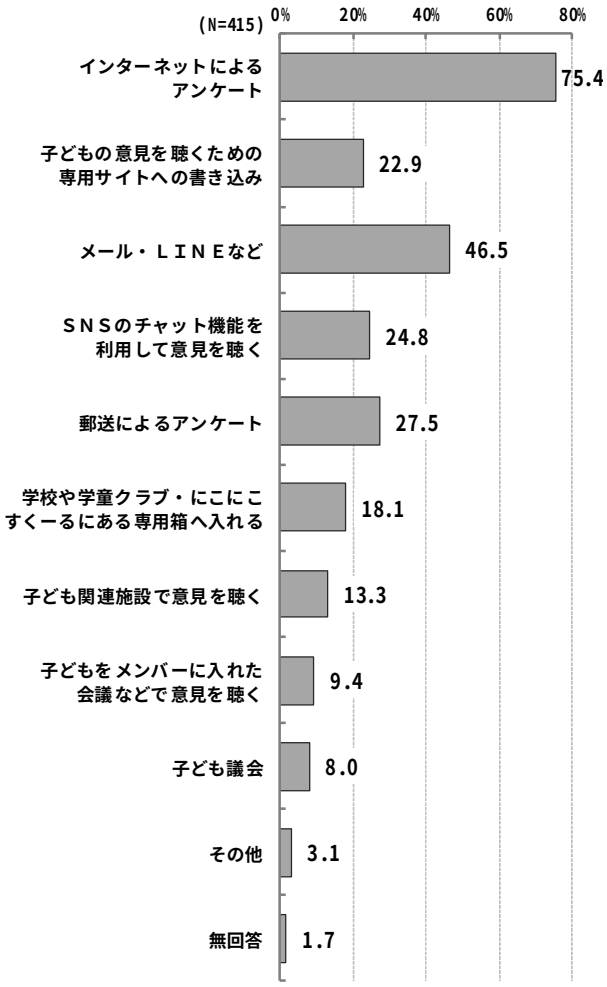
小学５年生、中２・高２相当ともに、「インターネットによるアンケート」が最も高くなっています。次いで、小学５年生は「郵送によるアンケート」、中２・高２相当は「メール・ＬＩＮＥなど」が高くなっています。

問　区では今後、子どもに関する施策を考えていくために、みなさんからの意見を聴きたいと考えています。その場合、意見を聴く方法はどのようなものがいいと思いますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

＜小学５年生＞



＜中２・高２相当＞

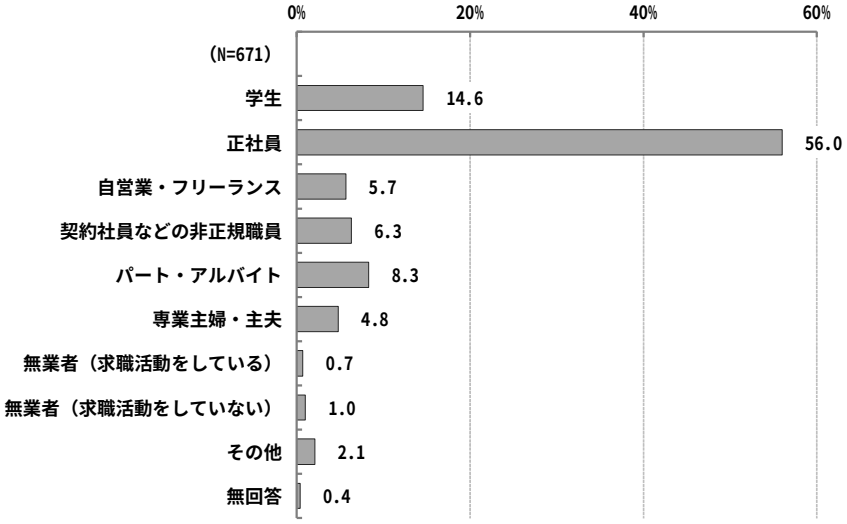


３　１８～３９歳の若者

（１）就労状況について

「正社員」が 56.0%と最も高く、次いで「学生」が 14.6%、「パート・アルバイト」が 8.3%となっています。

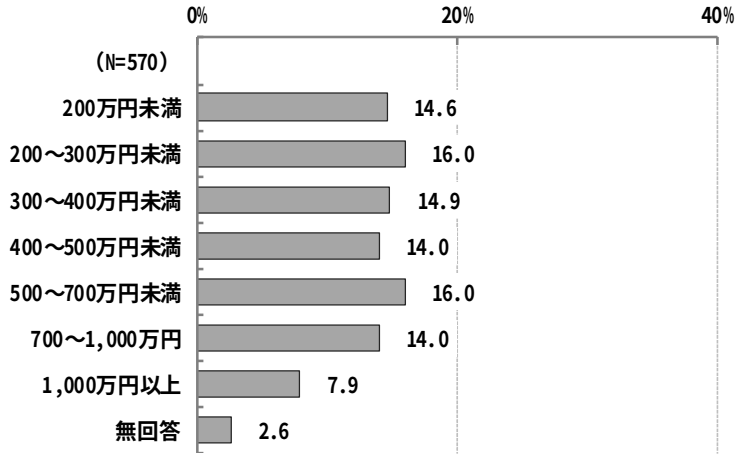
問　あなたの現在の職業として、当てはまる番号１つに○をつけてください。



（２）年収について（あなたのみ）

「200～300 万円未満」「500～700 万円未満」がいずれも 16.0%と最も高く、次いで「300～400 万円未満」が 14.9%となっています。

問　あなたの昨年１年間の収入（税込）についてお答えください。
当てはまる番号１つに○をつけてください。

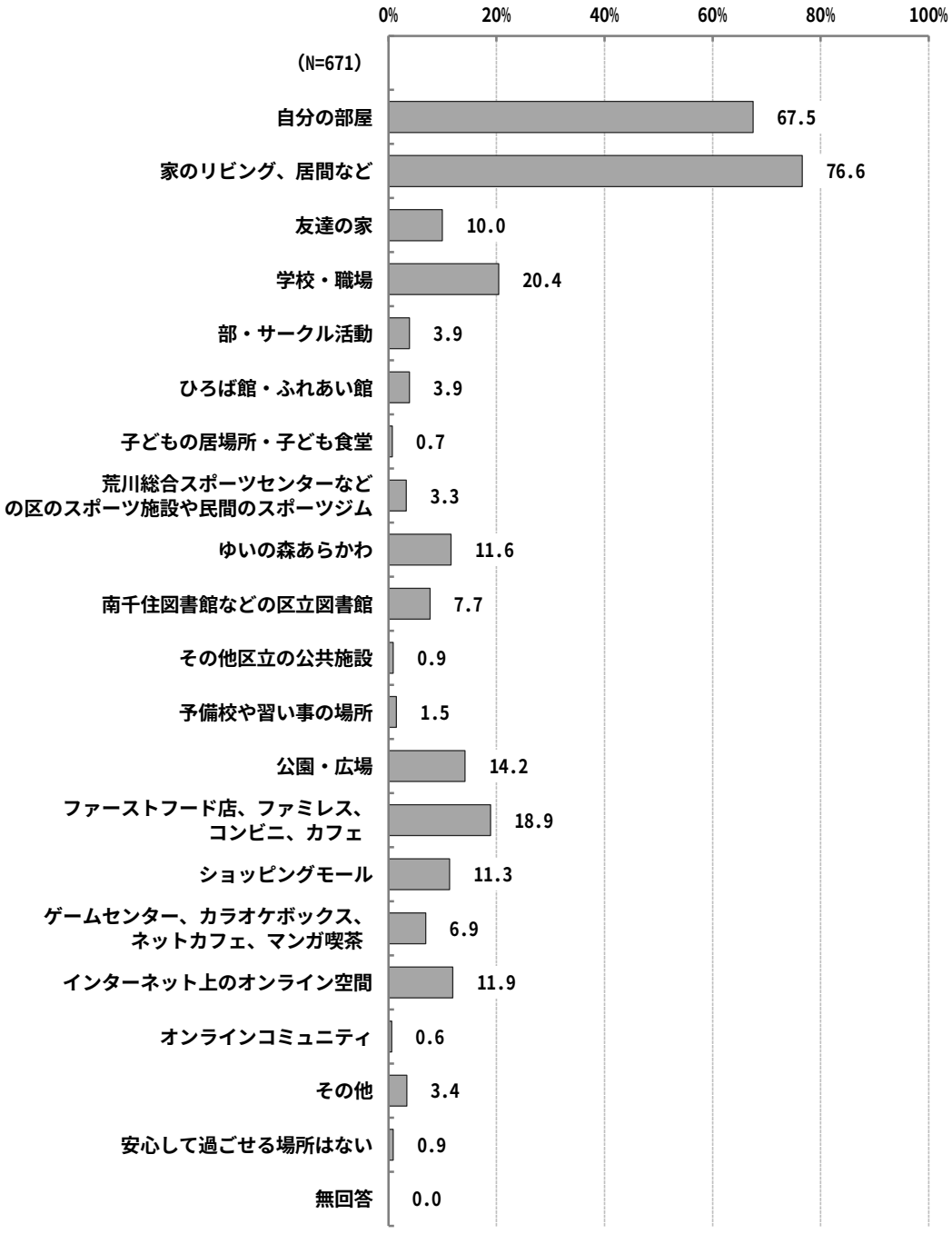


（3）普段の生活について

①安心して過ごせる場所

「家のリビング、居間など」が 76.6%と最も高く、次いで「自分の部屋」が 67.5%、「学校・職場」が 20.4%となっています。

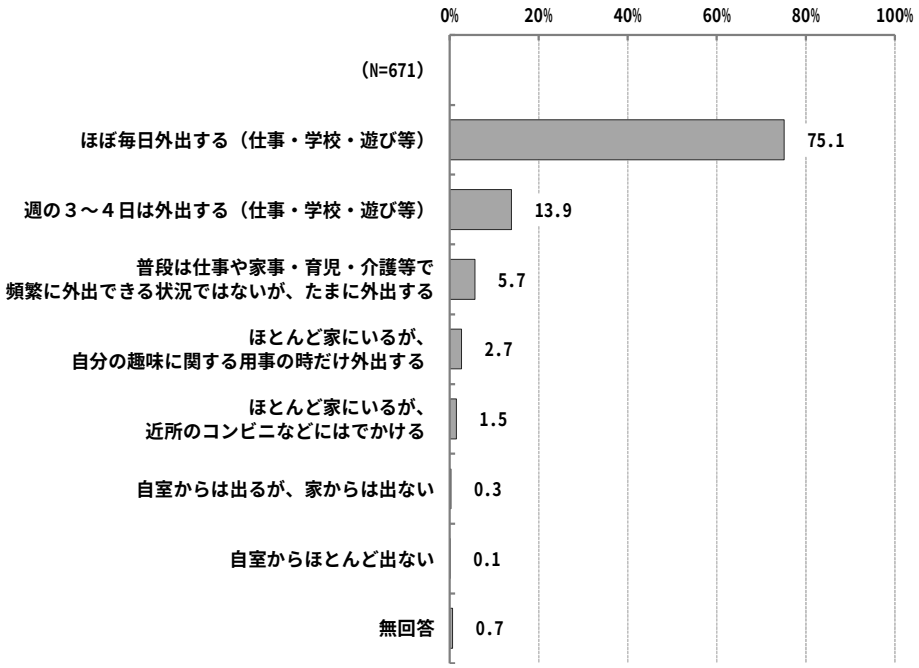
問　あなたには、安心して過ごせる場所はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



②外出状況

「ほぼ毎日外出する（仕事・学校・遊び等）」が最も高く、次いで「週の３～４日は外出する（仕事・学校・遊び等）」「普段は仕事や家事・育児・介護等で頻繁に外出できる状況ではないが、たまに外出する」となっています。

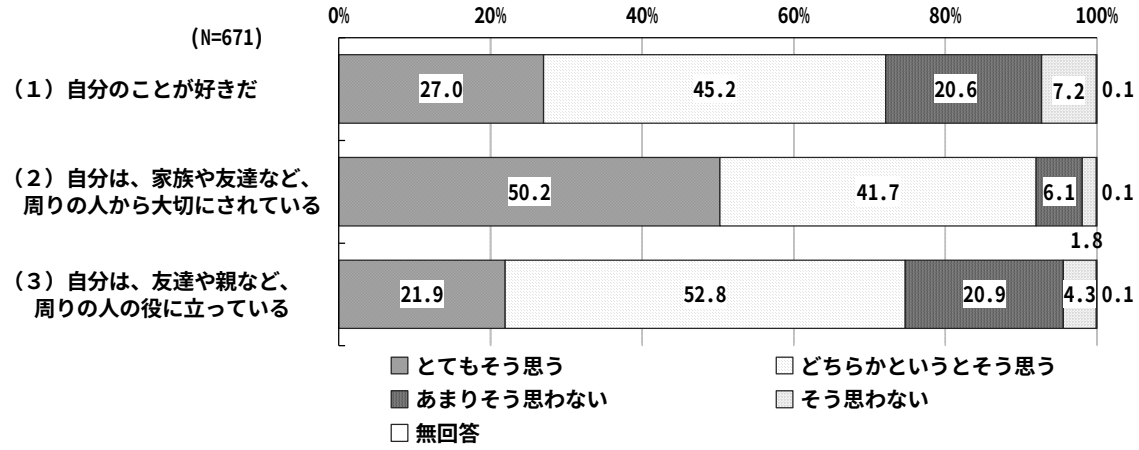
問　あなたの普段の外出状況として、当てはまる番号１つに○をつけてください。



（4）自己肯定感について

「自分は、家族や友達など、周りの人から大切にされている」は、“そう思う”（「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計）が、91.9%と最も高くなっています。

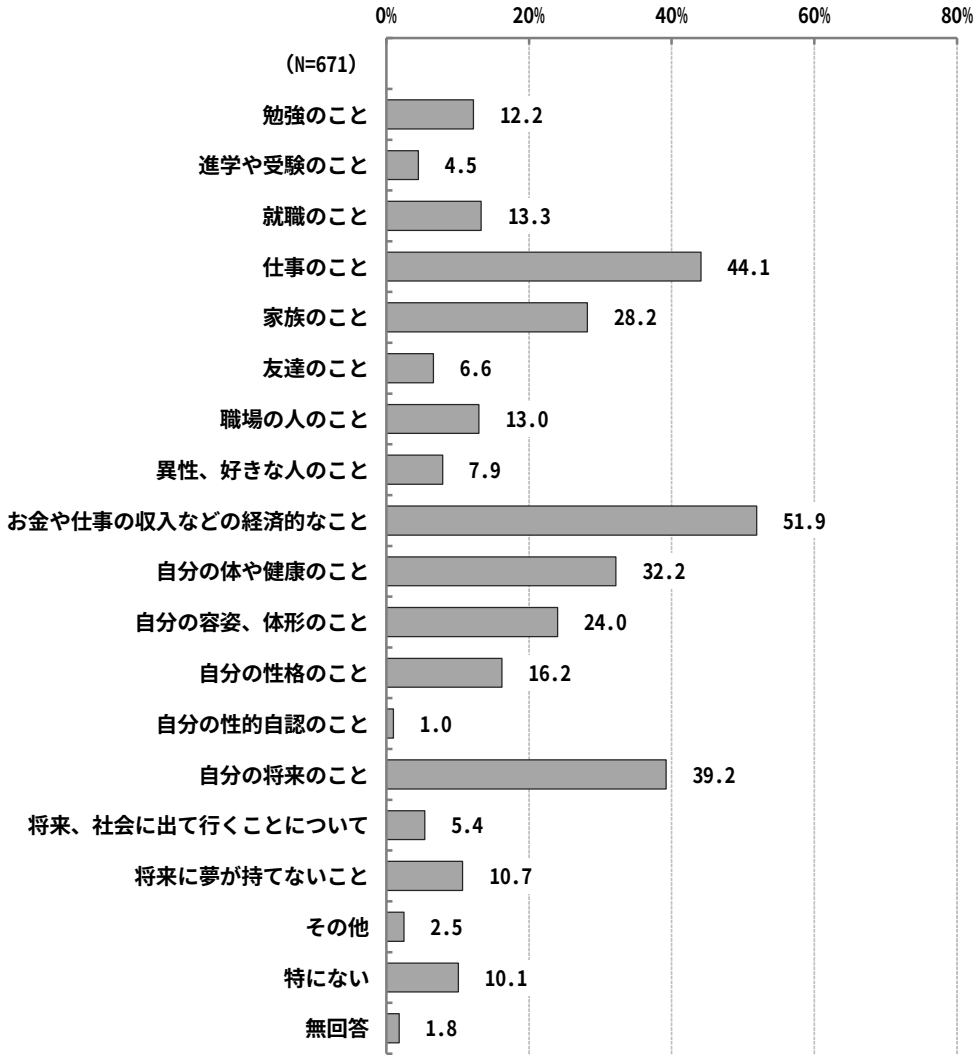
問　あなたは、自分のことについてどのように感じていますか。
（1）～（3）について、「1」～「4」のいずれか1つに○をつけてください。



（5）悩みの有無（暮らし・子育て）について

「お金や仕事の収入などの経済的なこと」が最も高く、次いで「仕事のこと」「自分の将来のこと」となっています。

問　あなたには、悩み事や困っていることはありますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

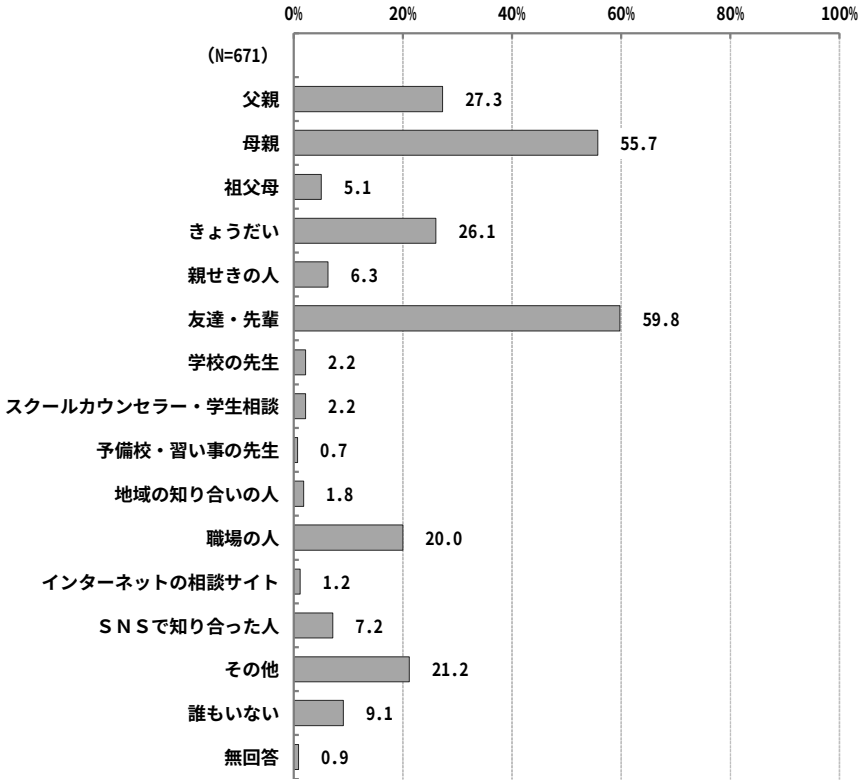


（6）相談できる環境について

相談できる人

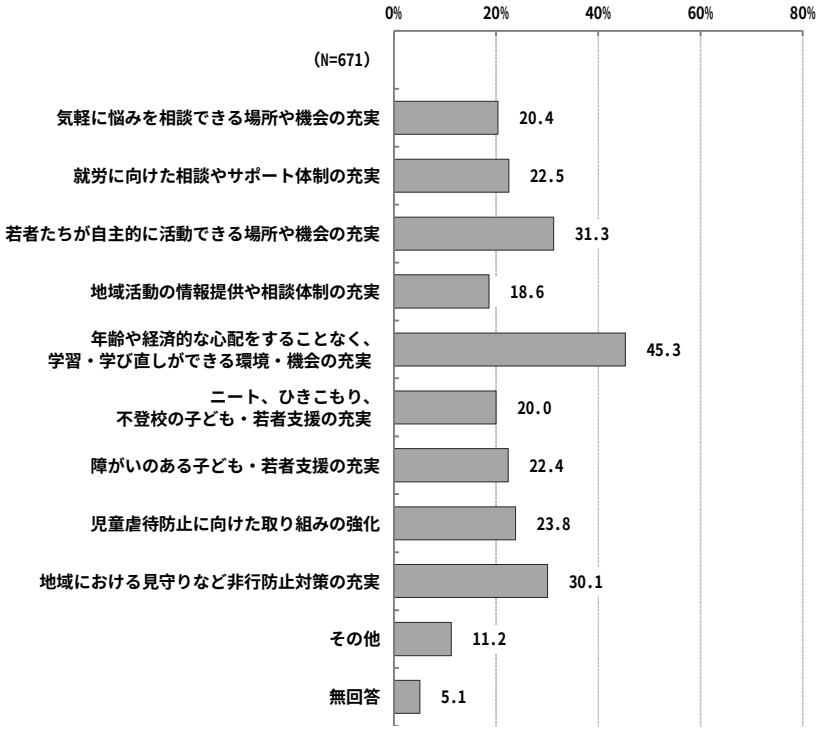
「友達・先輩」が最も高く、次いで「母親」「父親」となっています。

問　あなたには、悩み事や困っていることを相談できる人はいますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。



（7）荒川区について

あったらよいと思う取組

「年齢や経済的な心配をすることなく、学習・学び直しができる環境・機会の充実」が最も高く、次いで「若者たちが自主的に活動できる場所や機会の充実」「地域における見守りなど非行防止対策の充実」となっています。

問　あなたは、荒川区にどのような取組があったら良いと思いますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。